

地方史情報 148

2021年3月

地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

| | | | | | |
|------|----|-----|----|------|----|
| 北海道 | 1 | 新潟県 | 26 | 奈良県 | 43 |
| 青森県 | 3 | 富山県 | 27 | 和歌山県 | 43 |
| 宮城県 | 3 | 山梨県 | 28 | 島根県 | 44 |
| 秋田県 | 5 | 長野県 | 28 | 岡山県 | 45 |
| 茨城県 | 6 | 静岡県 | 31 | 広島県 | 46 |
| 群馬県 | 8 | 愛知県 | 32 | 福岡県 | 47 |
| 埼玉県 | 9 | 滋賀県 | 33 | 宮崎県 | 48 |
| 千葉県 | 10 | 京都府 | 34 | 鹿児島県 | 50 |
| 東京都 | 12 | 大阪府 | 37 | 沖縄県 | 51 |
| 神奈川県 | 22 | 兵庫県 | 41 | 寄贈図書 | 51 |

北海道

◆アイヌ語地名研究会会報

〒001-0017札幌市北区北十七条西1丁目1-1 コーポ望 FAX011-728-6400
年5000円

◇81 2020.12 B5 6p

第24回(2021年)アイヌ語地名研究大会の予定について

利尻山と樺太の女子山のアイヌ伝説再考

西谷 榮治

新刊紹介 『総括アイヌ語地名解』山下栄光さん

古書の販売について 伊藤せいちさん／現代の日本列島人3集団と縄

文人の関係 神澤秀明氏

◆浦幌町立博物館年報

〒089-5614十勝郡浦幌町桜町16-1 TEL015-576-2009 2000年創刊

https://www.urahoro.jp/chosya_shisetsu/kokyoriyu/museum/

◇21 2020.11 A4 105p *事業報告のみ

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでの2・7ビル9階

TEL011-271-4220 <http://hokkaido-bunkazai.jp>

◇382 2021.1 A4 10p

- 日本遺産「鮭の聖地」の物語 鮭山漬け寒風干し 小野 哲也
第56回 北海道文化財保護功労賞 受賞契機に飛躍を期待
文化財・郷土史研究会と歩んだ六十年 野村 武雄
二百有余年の時空を超えて 岡田 光弘
歴史の価値を次世代に NPO法人伝成館まちづくり協議会
新文書館に思う 佐藤 京子
尼港殉難者納骨塔と殉難者慰霊碑 竹田 輝雄
シリーズ・伝える 金刀比羅神社例大祭 道指定文化財 猪熊 樹人
まちのイチオシ 戦争体験談が残る襟裳岬の塹壕跡 中岡 利泰
第2回文化財講演会 彫刻倒壊！文明開化150年のアートの見せ方・守
り方 寺嶋 弘道
博物館ひろば 北斗の「地」のつながりを伝える 北斗市郷土資料館 時田 太郎
出前授業 子どもたちと文化財愛護の学習一月形小学校・鹿野小学校 田山 修三

◆北方民族博物館だより 北海道立北方民族博物館

〒093-0042網走市潮見309-1 TEL0152-45-3888 1991年創刊

<http://hoppohm.org>

◇118 2020.9 A4 6p

- 北海道北方民族博物館第35回特別展
北で生きるよすが 北方民族の世界観 笹倉いる美
講座 北海道の古代集落遺跡をめぐって：炉とかまど
講師：西脇対名夫氏 笹倉いる美
ウェルカムケース ハマニンニクのバスケット 宮本 花恵
◇119 2020.12 A4 8p
講習会 チルカット織り 講師：是恒さくら氏 笹倉いる美
講座 北海道土産と木彫り熊 講師：宮本花恵 宮本 花恵
ウェルカムケース サハとウシ 中田 篤
講座 博物館クラブ トンコリを演奏してみよう 講師：TOWA氏

| | |
|---|----------------|
| 講座 博物館クラブ 北方民族の太鼓をつくろう 講師：宮本花恵 | 野口 泰弥 宮本 花恵 |
| 講座 日本のアラスカ先住民の歴史 講師：野口泰弥 | 野口 泰弥 |
| 上映会 北方民族博物館 シアター 冬 講師：野口泰弥 | 宮本 花恵 |
| 訃報 津曲敏郎先生のご逝去について | 笹倉いる美 |
| 北海道立釧路芸術館 紡ぐ力と暮らし ピーズのはなやぎ、刺繍の美 —北海道立北方民族博物館コレクション | 笹倉いる美 |

青 森 県

◆弘前大学国史研究 弘前大学国史研究会

〒036-8560弘前市文京町1 弘前大学人文学部日本史研究室内 1956年創刊

◇149 2020.11 B5 65p

落合千左衛門と伊勢屋一天明三年青森町騒動頭取の人物像 浪川 健治
資料紹介

ロシア沿海地方、一〇世紀代の平地城・山城踏査について

小口雅史／小嶋芳孝

蝦夷刀三例—太刀と腰刀

関根達人／田坂里穂

歴史随想 国史研究会草創期の一人・佐藤仁先生

工藤 清泰

書評と紹介

小口雅史編『古代東アジア史料論』

坂上 康俊

関根達人著『石に刻まれた江戸時代—無縁・遊女・北前船』

福井 敏隆

北原かな子・浪川健治編『近代移行期における地域形成と音楽—創

られる伝統と異文化接触』

山田 淳平

浜田久美子著『日本史を学ぶための図書館活用術—辞典・史料・デ

ータベース』

永田 一

宮 城 県

◆国史談話会雑誌 東北大学国史談話会

〒980-8576仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科日本史研究室

気付 TEL022-795-6064 1957年創刊 <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nihonshi/>

◇61 2020.12 A5 128p

道嶋嶋足の殊勲と百濟足人—藤原仲麻呂政権崩壊の一側面 吉野 武

近世武蔵国和名場の被差別民における「二重支配」と身分秩序認識 福田 千晴

清朝末期における中国人女性の日本留学に見られる特徴 林 玢雅

| | |
|--------------------------------|-------|
| 宮城電気鉄道の敷設と沿線地域—海路から陸路への転換 | 徳竹 剛 |
| 史料紹介 「仙台米騒動」関係資料 | 中川 正人 |
| 歴史通信 東北初の市町村立公文書館「大仙市アーカイブズ」紹介 | 蓬沼 素子 |
| 内山純子著『古代東国の仏教—法相宗徳一の教化を中心に』 | 山下 瑠也 |
| 藤木久志著『戦国民衆像の虚実』 | 石川 光年 |
| 渡辺浩一著『江戸水没 寛政改革の水害対策』 | 伊藤 晴 |
| 研究報告会 研究発表要旨 | |
| 古代の内道場と宮中仏事 | 高野 証人 |
| 古代における僧侶の「所」について | 阿部 栞央 |
| 延暦・大同年間の財政と再編古代における僧侶の「所」について | 山下 瑠也 |
| 寺社騒乱による臨時奉幣 | 顧 婕 |
| 仙台藩の買米制度について | 殷 航 |
| 慶応二年信達一揆における情報伝達—菅野八郎頭取説を事例に | 伊藤 晴 |
| 研究室ノート | |
| 古代史研究会 | 五十嵐健太 |
| 中世史研究会 | 島崎 晟充 |
| 近世史研究会 | 片村 峰雪 |
| 近代史研究会 | 横山 匡祐 |
| 古文書を読む会 | 片村 峰雪 |

◆史の杜 上廣歴史資料学研究部門ニューズレター

東北大学東北アジア研究センター

〒980-8576仙台市青葉区川内41 TEL022-795-3196/022-795-4140

2013年創刊 <https://uehiro-tohoku.net>

◇別冊2 2020.10 A4 4p

地域の歴史を知る

古文書からみた須賀川市行きの江戸時代・村の暮らし

◇9 2020.12 A4 8p

古文書のひろば

異国船来航と武具商人

水をめぐる人々の祈り—「御用留帳」からみた洪水と雨乞

江戸時代の八戸城下における書物貸借組織の活動

調査の現場から コロナショックのもとでの資料保全活動

広げよう、古文書の輪 江戸時代の伊勢参宮

—白石・渡辺甚蔵の記録から

平川 新

荒武賢一郎

鈴木 淳世

藤方 博之

渡辺 信男

この一冊 荒武賢一郎・野本禎司・藤方博之編『みちのく歴史講座
古文書が語る東北の江戸時代』

野本 禎司

◆歴史 東北史学会

〒980-0862仙台市青葉区川内 東北大学大学院文学研究科 日本史研究室
TEL022-217-6064 年4000円 1949年創刊
<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nihonshi/t-shigakukai/>

◇135 2020.10 A5 108+28p 2100円

- 多賀城碑にみえる唐の四至八到記載様式の影響 柳澤 和明
南奥における戦国期権力の形成と展開―岩城氏権力と所務相論 泉田 邦彦
戦後における日本人居留民の山西残留 儲 欣予
アメリカ合衆国における二つのリドレス運動の衝突と交錯
―「戦時民間人転住・収容に関する委員会」の措置をめぐる 阿部 純
書評
小口雅史編『古代国家と北方世界』 相澤秀太郎
渡昌弘著『明代国子監政策の研究』 鶴成 久章
紹介 渡辺浩一／マシュー・デーヴィス編『近世都市の常態と非常態
―人為的自然環境と災害』 高橋 梓

秋 田 県

◆菅江真澄研究 菅江真澄研究会

〒011-0909秋田市寺内見桜1-5-55 古四王神社社務所内 TEL018-845-0333
1981年創刊 <http://w2.amn.ne.jp/~sugae/masumi.html>

◇95 2020.12 B5 14p

- 菅江真澄と内山真龍、栗田土満との出会い 金児 絃征
柳田国男が引用した高倉新一郎の講演録について 小笹 鉄文
真澄のあじさいところてん
―男鹿温泉郷、雄山閣の山本次夫さんの企画 清水川 修
連載 真澄の一枚(27)
雪中用具(2)『粉本稿』より(大館市立栗盛記念図書館提供) 菊地 利雄
菅江真澄を現代美術の視点で捉える展覧会
「ARTS & ROUTES ―あわいをたどる旅」 (永井・記)
真澄短信 青森菅江真澄研究会の活動(深澤恭仁会長)／三河信州訪問
のご報告(清水川修)
図書紹介 菊池勇夫著『道南・北東北の生活風景 菅江真澄を「案内」

として』／秋元松代著『日本の旅人 菅江真澄 日常生活を取材した旅人』

◆**鷹巣地方史研究** 鷹巣地方史研究会

〒018-3302北秋田市鷹巣町栄太田 照内喜久雄方
年2000円 1977年創刊

◇76 2020.11 A4 86p 1000円

表紙 佐賀徳治 (1886～1966)

巻頭言 コロナ禍を考える

中嶋 俊彦

「御高調帳」にある七日市村や比内郡内の様子など

長岐 純一

黒澤村・旧家「大川家」の歴史資料について

一貴重な古文書等火災で全て失う(昭和六十年)

中嶋 忠輝

「棟札」にみる中嶋家について一赤外線撮影による解説

中嶋 忠輝

明治三十四年北秋田郡における赤痢病の流行について

佐藤 俊晃

地方史の手帳 地方史記述にあたり(1)

永井 高道

講演会 伊勢堂岱縄文館第二回名誉館長講座 北秋田市の気になる三

つの遺跡 講師：伊勢堂岱縄文館名誉館長 富樫泰時氏

歴史教室 鷹巣地方の村の様子～組下給人の知行地の実態 講師：秋

田県歴史研究者・研究団体協議会会長 半田和彦氏

随 想

阿仁鉾山昔話を今に

桜田 俊

理論を貫き地方史に光を添えた二階堂善三氏

小塚 嘉七

ひろば

上大沢集落の跡を訪ねて

澤田 昌治

ガイドのスキルアップを目指して

一伊勢堂岱遺跡のジュニアボランティアガイド報告6

中嶋 俊彦

高鷹大学社会見学「クニマスと池田邸」

桜田 俊

菊地仁著 改訂版『近世田租法の研究』のおすすめ

一秋田藩渋江田法の実態

千葉 克一

茨 城 県

◆**茨城の民俗** 茨城民俗学会

〒310-0036水戸市新荘2-8-16 今瀬文也方 TEL029-350-3310

年3000円 1963年創刊 <http://www.minzoku.net>

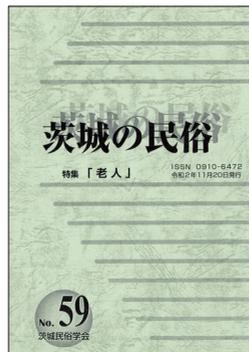
◇59 2020.11 B5 136p

《特集 老人》

特集 老人

突然の夫の介護
老人とっていない老人
老人
高齢者からの伝承による民俗芸能の再生と発展
一江戸川区葛西のおしゃらくを事例として
住民のつながりと高齢者の社会参加
茨城における浜降り祭の起源(3)
茨城県における孝謙天皇と道鏡法王の伝承
霞ヶ浦出島の墓制(1) 複数墓地と墓制の変遷—深谷地区の事例から
鹿島の古代製鉄と鹿島踊り
『本朝世事談綺』の「鹿島踊り」について
つくば市栗原の盆綱行事
茨城のまつり見聞録(4)
神之池(神栖市)の伝承
すみつかれ作りとすみつかれサミット2020
真壁伝承館歴史資料館と総合的な学習の時間
「えみし」と「日高見国」(1)

久家けい子
小松崎智子
濱田 憲一
清水 亨桐
飯村 香織
黒澤 雅博
近江 礼子
古谷野洋子
久保 衆伍
清水 秀世
石本 敏也
長江 慶治
五十嵐靖幸
古山 菜摘
寺崎 大貫
松崎健一郎



* 現代社会の喫緊のテーマである「老人」を特集する。

久家けい子「突然の夫の介護」は、50歳の時に義父母の介護で退職を余儀なくされ、二人を見送って間もなく、80歳を目前にして今度は夫が脳梗塞に倒れ、発病から2年で旅立つまでの、入院生活、介護保険申請、在宅介護、外出リハビリなど、こまごまとした日常の生活を淡々と綴る。同様の状況にある老人家族に大いに参考になるだろう。

小松崎智子「老人とっていない老人」は、物心ついてから82歳までの思い出を辿り、謡曲を習い、論語を学び、授かった余命を大切に生きたいという。濱田憲一「老人」は、壮年期に自分に合った仕事をしてこれたことを最高の幸せと回想し、後期高齢者として運転免許証の更新をし、老人とは人生において、良いことも悪いことも寝床にて、生きて来て良かったと考えられる最高の時間帯を持つ事だと記す。二人の意欲溢れる生き方に勇気づけられる。

清水享桐「高齢者からの伝承による民俗芸能の再生と発展」は、江戸川区葛西の消滅寸前だった民俗芸能を、芸能の専門家が高齢者からの伝承をもとに再生、発展させた報告である。民俗学的な意義はもとより、高齢者には生きがいを与えるものである。

飯村香織「住民のつながりと高齢者の社会参加」は、高齢になっても住み慣れた地域で、健康で生き生きと過ごせるよう、高齢者を地域で支える「高齢者サロン」の提言である。茨城県城里町で介護予防として行われているふれあいサロンを例に、シルバーリハビリ体操事業の効果、参加者の意識、サロンへの期待を紹介する。サロン活動は参加住民ひとりひとりが主体になって、自主的に活動していくことが求められているという。素晴らしい取り組みである。

いずれも、高齢化社会の在り方に大きな示唆を与えてくれるものである。なお、次号の特集は、「病气」が予告されている。こちらも楽しみである。

◆近代史料研究 日本近代史研究会

〒305-8571つくば市天王台1-1-1 筑波大学歴史人類学系 中野目研究室内
Tel.029-853-4066 2001年創刊

◇20 2020.10 A5 118p

最上家所蔵「陸羯南宛高橋健三郎書簡」の概要

—テキストの整備と記述内容の検討

中野目徹／田中友香理

帝国図書館文書の検討—図書館史研究のための基礎作業として

長尾 宗典

『交友会雑誌』にみる地方青年の言論空間—明治三十年代前半の旧制

松山中学校『保恵会雑誌』を中心として

青木 一平

三井家所蔵「三井甲之関係史料」の検討

横川 翔

日本近代史研究会のあゆみ（第1回～第88回）

『近代史料研究』総目次（第1号～第20号）

群馬県

◆群馬文化 群馬県地域文化研究協議会

〒372-0831伊勢崎市山王町38-38 前澤和之方 年4000円 1957年創刊

<http://blogs.yahoo.co.jp/gunmabunka/>

◇341 2020.12 A5 80p

- | | |
|--|----------------|
| 群馬県における農家建築の建造年代推定 | 村田 敬一 |
| 『上野国神名帳』の写本分類と系統 | 神保 侑史 |
| 女堀のルート選定に関する地理的検討 | 澤口 宏 |
| 動向 群馬歴史資料継承ネットワーク(ぐんま史料ネット)の設立と展望 | 群馬歴史資料継承ネットワーク |
| 群馬の歴史的建造物(2) 曹源寺栄螺堂 | 栗原 昭矩 |
| 新刊紹介 | |
| 今井昭彦著『近代群馬と戦没者慰霊』 | 落合 延孝 |
| 磯部淳一著『東国の中世石塔』 | 秋池 武 |
| 関俊明著『災害を語り継ぐー複合的視点からみた天明三年浅間山災害の記録』 | 中島 直樹 |
| 真田用水研究会／田中修・丑木幸男編著『沼田藩真田用水群の魅力美田を拓いた真田氏五代』 | 篠瀬 大輔 |
| 江田郁夫・篠瀬大輔編『中世の北関東と京都』 | 須藤 聡 |
| 口絵 ヤーンバスケット ブルーノ・タウトデザイナーー群馬県立歴史博物館蔵品資料(142) | 中島 真一 |

◆群馬歴史散歩 群馬歴史散歩の会

〒379-2154前橋市天川大島町317-1 TEL027-223-2785

年4500円 1973年創刊 <http://www16.plala.or.jp/kuzira226/>

◇265 2021.1 A5 56p

- | | |
|--------------------------|-------|
| 口絵 千代田町の水害記念碑 | 井野 修二 |
| 榛名山の座主職と頼印僧正 | 山本 隆志 |
| 明治三十年代の群馬観光名所を線路に沿って | 井野 修二 |
| 土龍山事件と謝文東と東宮鐵男 | 東宮 春生 |
| 群馬の鉾山(4) 八幡(中丸)鉾山編(1) | 本多 優二 |
| 「維新の原動地・土佐」を顧みてー野中兼山に触れて | 山崎 正 |
| 表紙写真 榛名神社 円乗院跡 | 山本 隆志 |

埼玉県

◆昔風と当世風 古々路の会

〒343-0027越谷市大房1006-4-410 津山正幹方 TEL048-976-9387 1973年創刊

◇105 2020.12 B5 154p

《岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区合同調査特集》

- | | |
|---|-------|
| 岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区見聞録(抄)―虫明最後の土葬 | 森岡 弘典 |
| 岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区の調査を終えて | 西尾 嘉美 |
| 半農・半漁の裳掛―生活とムラ行事の変遷 | 河合 久和 |
| 聞き書き 虫明の漁業―ウタセからカキ養殖へ | 池田 哲夫 |
| 裳掛の土と産業 | 溝辺 悠介 |
| 海の育まれた虫明のくらしと信仰 | 茶谷まりえ |
| 裳掛の煙草栽培その他 | 谷川 隼也 |
| 虫明焼 | 谷口 弘美 |
| 「大福帳」を通して見る暮らし | 出口絵莉子 |
| 「ヘーシよけ」と「自宅出産」―岡山県瀬戸内市邑久町裳掛の産育 | むらき数子 |
| 岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区の年中行事など | 関 廣好 |
| 岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区の年中行事と儀礼食 | 西蓮寺 匠 |
| 裳掛の海からの調査報告 | 下境 芳典 |
| 時の流れ、網の流れ―生活史からみる裳掛の暮らし | 菊池 恭平 |
| 虫明の漁業組合 | 岡島 颯斗 |
| 邑久町裳掛地区の信仰と講集団 | 山本 拓人 |
| 岡山県瀬戸内市邑久町裳掛地区の信仰と行事 | 大庭みのり |
| 婚姻・葬送・お墓のミサキサマ | 佐志原圭子 |
| 神仏に守られた住まい 聞き取り：森隆男・宮崎玲子・山崎祐子／採 図：宮崎勝弘・清水智子・高原一朗／作図：宮崎勝弘 | |
| 民家二種 文章：宮崎勝弘／図面：宮崎勝弘・高原一朗／聞き取り： 森隆男・宮崎玲子・山崎祐子 | |
| 岡山県瀬戸内市裳掛紀行 | 鈴木 秋彦 |
| 裳掛でお聞きしたこと、いろいろ | 西尾 嘉美 |
| 瀬戸内の家大工・舟大工・左官職人―岡山県瀬戸内市邑久町 | 津山 正幹 |
| 民俗学と研究会活動(6) | |
| 全国的民俗調査の実施―いわゆる「山村調査」 | 今野 大輔 |
| 第47回北秋田市綴子地区合同調査のお知らせ 会長：森隆男／事務局長：津山正幹／調査幹事：松尾あずさ・高橋進 | |

千葉県

◆我孫子市史研究センター会報

〒270-1152我孫子市寿1-3-12 荒井方 TEL04-7182-2838

<http://abikosisiken.main.jp>

◇223 (通530) 2021.1 A4 12p

- 新年のごあいさつと今後の当会活動について 岡本 和男
古文書解読火曜部会 12月の活動報告
沼南島村郁馬家文書「御野馬捕人足御赦免願一件扣」 中臺 卓夫
古文書解読日曜部会 12月の活動報告
旧布佐村増田家文書「山根惣兵衛道中日記」 山本 包介
井上家文書研究部会 12月活動報告 中澤 雅夫
合同部会 12月の活動報告 山本 包介
我孫子の社寺を訪ねる(39) 新木地区 葦不合神社 飯白 和子
歴史部会 11月の活動報告 第49回研究講座 逆井 萬吉
古代史研究グループ 12月の活動報告 中嶋 正義

◆千葉史学 千葉歴史学会

〒263-0022千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学文学部内 TEL043-251-1111
年4000円 1982年創刊 <http://chibareki.blog.fc2.com>

◇77 2020.11 A5 80p

- 巻頭随想 地誌としての歴史—在宅勤務で考えたこと 小島 道裕
歴史随想
「国防競技」の成立について 青木 祐一
文化財保全活動の射程—被災・救出・安定化、そして 白水 智
歴史資料としての災害体験 宮坂 新
近世中後期における城下町祭礼の成立と展開
—丹後田辺城下朝代祭礼の城内巡幸を中心に 白谷 茉莉
歴史家重野安繹と永島亀巢—「永島亀巢之碑」・金沢文庫再興のこと 佐藤 博信
史料紹介 堀親良関係文書の紹介—飯田市美術博物館所蔵安富家文書 田嶋 悠祐

新刊紹介

- 青木豊・辻秀人・菅根幸裕編『博物館が壊される！—博物館再生への道』 小田 真裕
川戸貴史著『戦国大名の経済学』 林 聡香
古代史部会 4月例会 白井久美子氏「龍角寺古墳群とその時代」/
6月例会 古代史サマーセミナー準備報告 山路直亮氏「下総国府
の人面墨書土器と印旛郡」、栗田則久氏「千葉郡山梨郷・物部郷の
拠点集落」/7月例会 古代史サマーセミナープレ報告会 シンポ
ジウム「古代の郡と郷をさぐる—下総国印旛の事例を中心に」 文責・石渡芳樹
近世史部会 2019年9月例会 鈴木愛「竹中友亮報告「近世後期にお

- ける地域社会と手習塾—下総国葛飾郡藤原新田『安川舎』を事例に」
 について」 文責・小田真裕
- 近世史部会 2020年2月例会 例会テーマ「房総災害史研究の展望」
 武田真幸「天保飢饉の記録—神保家文書を中心に」、上條静香「安
 政三年大風雨—流山市域を事例に」 文責・小田真裕
- 近現代史部会 2020年10月例会 国立歴史民俗博物館特別展「性差の
 日本史」見学 文責・高木晋一郎
- 千葉歴史学会第39回総会報告

東 京 都

- ◆足立史談 足立区教育委員会足立史談編集局
 〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393
- ◇634 2020.12 A4 4p
 文化フライの思い出 郷土博物館
 あだち民具図典(2) 田植え綱 荻原ちとせ
 はい、文化財係です。(23) 舎人氷川神社本殿—身近にある彫刻美 佐藤 貴浩
- ◇635 2021.1 A4 4p
 柴田是真の作品と記録 濱田家の是真作品／是真と明治三十年／
 『唾玉集』エピソードより 加藤ゆずか
 かつて見られた足立の郷土玩具—綿狸 佐藤 夏美
 はい、文化財係です。(24) 「本田家文書」に捺されたハンコ 佐藤 貴浩
- ◆足立史談会だより
 〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393
- ◇393 2020.12 A4 8p
 第五九回・一茶まつり特選句 応募61890人 小学生の部／中学生の部
 民主主義を見直そう 戦後の新教育指針(文部省資料昭和21.5.1)(5)
 編・堀川和夫
 大師から増田橋へ 竹の塚学習センター ウォーキングと歴史探訪 伊藤 博
 区民教養講座 江戸から東京へそして世界へ 講師：金澤利明先生
 江戸川柳で物価を知る(1)
 大仏の化身とお竹如来 稻泉(小泉健男氏遺稿)
 江戸川柳で物価を知る(2) 自然現象の処理 稻泉(小泉健男氏遺稿)
 江戸川柳で物価を知る(3)上 一晩一箱の夢 稻泉(小泉健男氏遺稿)
- ◇394 2021.1 A4 8p

温故知新を考える 堀川 和夫
(新年おめでとうございます) 木嶋 孝行

初鳴きや明けぬ夜なきを寿ぎて 養生(添田善雄氏)
千住の鷗外碑 再び設置
民主主義を見直そう 戦後の新教育指針(文部省資料昭和21.5.1)(6)

編・堀川和夫

川柳もどき句・五七五 学童疎開平和祈念碑建立を祝す 堀川 和夫

芭蕉さん 三像 新顔登場・芭蕉木像 足立成和信金入口／旅立ち

石像 足立市場入口／芭蕉陶像 学びピア玄関

新年度にやりたいこと

千寿七福神 七福神の歴史

江戸川柳で物価を知る(3)下 一晚一箱の夢 稻泉(小泉健男氏遺稿)

江戸川柳で物価を知る(4)

江戸っ児と初かつお 稻泉(小泉健男氏遺稿)

江戸川柳で物価を知る(5)上

銭売りと緞売り大違う 稻泉(小泉健男氏遺稿)

◆あるむぜお 府中市郷土の森博物館

〒183-0026府中市南町6-32 TEL042-368-7921 1987年創刊

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

◇134 2020.12 A4 8p

表紙 1964東京オリンピックと府中(3) 聖火 府中市内を走破

東府中駅付近を疾走する2区の聖火ランナー(1964年10月8日

東府中駅付近)

1964東京オリンピックと府中 その3 聖火 府中市内を走破

佐藤 智敬

最近の発掘調査 国府東方で発見した大型掘立柱建物跡

八幡町三丁目

野田憲一郎

NOTE 宮本常一が府中から考えた観光のこと、博物館のこと

小野 一之

府中の史料に見る江戸時代の流行病(3)

種痘の普及に尽力した蘭方医

花木 知子

府中の都市動物 BLACK LIST(2) 暗闇でドッキリ

中村 武史

平成史に残る天文・宇宙イベント(7) しし座流星群、大出現!

上野アイ子

◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒175-0092板橋区赤塚7-18-7 <https://www.okumusashi.club>

◇437 2021.1 B5 30p

表紙 コロナ禍で新年を迎えた子の権現 撮影：清水卯平氏

コロナ禍に新年を迎えて

小泉 重光

レトロ絵葉書に天覧山と多峰主山を探る

小泉 重光

思い出の中の藤本さん(4) 藤本一美氏の年賀状

町田 尚夫

藤本一美氏追悼の詩「絵師F」補遺

町田 尚夫

山行報告

秩父順礼江戸古道(4)

小泉 重光

児玉三十三霊場めぐり(3)

西東 昭夫

秩父順礼江戸古道(5)

小泉 重光

◆儀礼文化ニュース 儀礼文化学会

〒160-0012新宿区南元町13-7 TEL03-3355-4188

◇220 2020.12 A4 8p

催事スケッチ 京都府木津川市 相楽神社の餅花祭 豊かな稔りを願

う餅の花 餅花祭 京都府木津川市 相楽神社 2月1日 聞き手・久保田裕道

レポート 儀礼文化講座(令和2年度第3回) 神道「近世出雲大社の

復古事業一神仏関係史」講師：西岡和彦／儀礼文化講座(令和2年

度第5回) キリスト教「キリスト教における年間の行事」講師：

具正謨

特集 シリーズ・儀礼文化のいま 第二回「日本料理のいまー近茶流」

お話：近茶流宗家 柳原一成氏・近茶流嗣家 柳原尚之氏

会員を訪ねる 巖島神社／大山祇神社

儀礼文化の提言

倉林 正次

ミュージアム探訪 明治神宮鎮座百年記念展「明治神宮の鎮座」

明治神宮ミュージアム

栗田恵津子

◆杉並郷土史会史報

〒167-0022杉並区下井草3-12-9 新村康敏方 1973年創刊

<http://www.sugi-chiiki.com/rekishikai/>

◇285 2021.3 A4 8p 400円

犬はなき 民は喜ぶ 丑の年

江戸元禄時代の犬囲いの足跡、高円寺村にも犬囲いがあった。大河原善雄

史学見学会 住宅地杉並から～井荻を知る／井荻村区画整理の前と後

『史跡見学会栞』より

引率・説明・文責 伊東勝

花磯さんの記憶画 杉下茂と明治大学杉並校舎

波 巖

一陽来復

編集責任・波 巖

◆西郊民俗 西郊民俗談話会

〒112-0005文京区水道2-3-15-403 小池淳一方 年2000円 1957年創刊

<http://seikouminzoku.sakura.ne.jp>

◇253 2020.12 B5 31p

「聞き違い」の話―群馬県下の「聞き違い」系統の話を探る 井田 安雄
神功皇后をめぐる水の伝承と、その信仰―武雄温泉春まつりを中心に

「撒き銭」慣行についての一考察―薬王寺結衆大法会を中心に
富山県魚津市古鹿熊のツブラ(円ら、藁製育児民具)について
本性寺の樹木葬

福西 大輔
松崎 憲三
森 俊
大島 建彦

◆戦国史研究 戦国史研究会（発売：吉川弘文館）

1981年創刊 <http://www.sengokushi-kenkyukai.jp>

◇80 2020.8 A5 52p 682円

文明期における若狭武田氏の在国と在京

―国信・信親父子の役割分担を中心に
秋月種実考―秋月種実発給文書の分析
羅針盤

笹木 康平
中村 知裕

宇喜多和泉守宛「晴政」書状再考

畑 和良

下総椎名氏関係の新出文書二点

高橋 和孝

戦国史研究 総目録（第61号～80号）

戦国史関係論文目録（令和元年7月～12月）

例会記録／例会報告要旨

第480回例会

関ヶ原合戦後における豊臣氏と徳川氏の関係に関する一考察

小林雄一郎

第481回例会 明応の政変以降における將軍足利義材と諸大名

―紀伊の畠山尚順を中心に

小池 辰典

第482回例会 越後国荒河保の「川の民」と武家領主

新保 稔

第483回例会 小田原北条氏をめぐる女性たち

浅倉 直美

総会報告／訃報 大久保俊昭氏

◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会

〒157-0061世田谷区北烏山2-3-9-101 光田憲雄 TEL03-3307-2146

<http://daidogei.info>

◇349 2020.12 A4 2p 100円

『熙代勝覧』が載せる生業(12) 金山寺味噌売り／人形配達人？ そ

れとも屋台の配達人？ 或いはけとくの配達か？／籠屋(たがや)／紙屑買い／六十六部／糞尿集め／修験者／旅人／坊主と小僧／大八車／話／夢中の女二人／(街頭)講釈

◆多摩のあゆみ たましん地域文化財団

〒186-8686国立市中1-9-52 TEL042-574-1360 年600円 1975年創刊

<http://www.tamashin.or.jp>

◇180 2020.11 A5 102p

《特集 現代の祭りとコミュニティ》

現代の祭りとコミュニティ・総論

中野泰／藤野哲寛

ベッドタウンで「伝統」と向き合う

一立川市諏訪神社の獅子舞のあゆみ

伊藤 純

八王子市における囃子と町会組織の関係性

高久 舞

御輿と御輿会にみる祭礼とコミュニティ—くらやみ祭を主として

中里 亮平

稲荷と祭りの家集団—狛江市和泉地区の事例から

榎本 直樹

洋風建築への誘い(69)

メリダ・ネオ・エポック ニコン・ほんぼりの里(あきる野市)
建物雑想記(64) 広縁のある庭付き一戸建て住宅「いな暮らし」

伊藤 龍也
酒井 哲

古文書は語る(57) 疫病の流行と多摩丘陵や周辺地域の様相

一小島家文書「小島日記」より

馬場 憲一

多摩の金融史(14) 多摩中央信金の昭和五〇年代

佐藤 政則

多摩の歴史を立体視！—赤色立体地図の風景(7) 鎌倉街道を赤色立
体地図で探る—多摩丘陵に刻まれた道路遺構、町田市小野路町・野
津田町を例に

宮田 太郎

本の紹介

武蔵御嶽神社及び御師家古文書学術調査団編『武州御嶽山の史的研
究』

菅野 洋介

八王子市教育委員会編『八王子車人形調査報告書』

高木 秀樹

ネットワーク・市民アーカイブ出版プロジェクト編『ようこそ！

市民アーカイブを多摩へ 市民活動の記録を残す運動の歩み』

黒尾 和久

◆調布市郷土博物館だより

〒182-0026調布市小島町3-26-2 TEL042-481-7656 1978年創刊

◇82 2020.12 A4 8p

さらば、筏つなぎの松—江戸の建設を支えた多摩川の筏流し

伐採される直前の「筏つなぎの松」を撮影

小堀 槇子

令和二年度夏季企画展「1964年東京オリンピックを振り返る一収蔵品
を中心に」から 芝崎由利子／土井昭穂
『1964年東京オリンピックと調布について知ろう』を刊行しました
昭和三十九年東京オリンピック 調布に迎えた五十キロ競歩 芝崎由利子
調布市郷土博物館の公式ツイッターを始めました
令和元年度事業報告 展示活動／教育普及活動

◆調布の文化財 調布市郷土博物館

〒182-0026調布市小島町3-26-2 TEL042-481-7656 1986年創刊

◇59 2019.11 A4 8p

史跡下布田遺跡の保存活用計画を策定しました 立川 明子
文化財講演会抄録 松崎元樹氏「調布市狐塚古墳と多摩川流域におけ
る終末期古墳」

新指定の文化財 調布市指定有形文化財(絵画・歴史資料)「絹本著色
釈迦三尊十六善神図」

矢本 夏子

◇61 2020.9 A4 8p

国指定史跡下布田遺跡の発掘調査最前線！

下布田遺跡の発掘調査最前線 立川 明子
戦後75年記念レポート 陸軍調布飛行場と三式戦闘機 桑原 隆

◆東京産業考古学会 NEWSLETTER

〒174-0046東京都板橋区蓮根2-29-10 新蓮根団地105 多田統一方 FAX03-
3964-8548／〒352-0011埼玉県新座市野火止4-8-43 柚須絃一方 FAX048-479-
7490 年2000円 <http://tias3.web.fc2.com>

◇146 2021.1 A4 6p

謎のステンレス製銘板 清水稲荷来歴 文・写真 有馬純雄

文献紹介 『京の家 町家』 ミカブックス編著 多田 統一

産業遺産の宝庫 足尾 文・写真 長谷川景一

文献紹介 東京都教育庁地域教育管理課編『東京文化財ウィーク 東
京の歴史を訪ねて 特別公開・企画事業編 2019』 多田 統一

富山大空襲で溶けた硬貨 文・写真 奥原一三

茨城県結城市の赤煉瓦建築物(2) 「株式会社 武勇煙突」 文・写真 八木司郎

◆日本近代文学館 日本近代文学館

〒153-0041目黒区駒場4-3-55 TEL03-3468-4181 <https://www.bungakukan.or.jp>

◇293 2020.1 B5 16p

| | |
|---|----------|
| 今月の一枚 川端龍子の年賀状 渋沢青花あて 渋沢青花文庫(同氏寄贈)より | |
| 駒場ノート(51) 文豪たちの東京 与謝野晶子・寛、北原白秋の書や短冊などの多数受贈／訃報 竹盛天 雄顧問 | 坂上 弘 |
| 文学の風景 羊と憂国 | 高山れおな |
| わたしの蔵書から 子どもの本と私と『こがね丸』 | 松村由利子 |
| 文庫・記念館 語りの世界へ 久留島武彦記念館 声のライブラリー100回に寄せて | 宝珠 史洋 |
| 言いよどみの史学—声のライブラリーの史的価値について | 藤原 辰史 |
| 言葉は人生の道しるべ | 佐藤洋二郎 |
| 私物化 | 伊藤比呂美 |
| 毎回、怖い | 小池 昌代 |
| 「詩のありかに触れるささやかな試み」展を観て 詩集を片手に見たり聴いたり | 栩木 伸明 |
| 文芸同人雑誌『四人』 | 山本 悦夫 |
| 駒場の四季 特別資料 デジタル画像閲覧について | 小川 桃 |
| 所蔵資料研究—作家の手紙 神西清から伊藤海彦宛て書簡 | 加藤 桂子 |
| ◇294 2020.3 B5 16p | |
| 今月の一枚 平山蘆江色紙 瓢箪の絵と都々逸(平山城児氏寄贈) | |
| 駒場ノート(52) 「声のライブラリー」第百回 | 坂上 弘 |
| 春季特別展「日本をゆさぶった翻訳—明治から現代まで」開催 竹盛天雄顧問追悼 | |
| 竹盛天雄さんのこと | 池内 輝雄 |
| 竹盛天雄先生の鷗外研究 | 山崎 一穎 |
| 竹盛先生の遺産 | 中島 国彦 |
| 首猛夫と机龍之助と | 紅野 謙介 |
| 竹盛先生のまなざし | 長島 裕子 |
| 竹盛天雄顧問略歴 | |
| 文学の風景 馬とはなにものであるのか | 古内 一絵 |
| わたしの蔵書から 冒険家の残影 | 角幡 唯介 |
| リトルマガジンは今 「ちえっく CHECK」のこと | 中沢 けい |
| 春季特別展「日本をゆさぶった翻訳—明治から現代まで」開催 | 高橋修／加藤桂子 |
| 視点—文学と音楽 ヴァイオリン独奏と弦楽四重奏…… 小林秀雄と音楽のこと | 三浦 武 |

| | |
|---------------------------------|-------|
| 新しい思考の角度を模索し合う奇妙なコミュニケーション | 太田 靖久 |
| 所蔵資料研究 近代文学史の起源—岡本芳雄と「細川だより」 | 多田 藏人 |
| 視点—文学と美術 差別・沼・ジャズ 山下菊二と木島始をめぐって | 足立 元 |
| 『日本近代文学大事典』と私 二〇〇字項目執筆の思い出 | 中島 国彦 |
| 所蔵資料研究—作家の手紙 | |
| 伊藤海彦宛て書簡から—片山敏彦、山室静、矢内原伊作 | 加藤 桂子 |
| ◇298 2020.11 B5 16p | |
| 駒場ノート(56) | 坂上 弘 |
| 2022年度春季特別展に川端康成没後五十年展 | |
| 今月の一枚 昇曙夢書(米川正夫記念帖より) | |
| 文学の風景 集める・読む・生かす | 真田 啓 |
| わたしの蔵書から 古書展落穂ひろいの楽しみ | 稲岡 勝 |
| 文庫・記念館 永瀬清子展示室 ようこそ永瀬清子の里へ | 白根 直子 |
| 寄贈資料に寄せて 大政翼賛会関係地方資料の寄贈について | 佐々木靖章 |
| 所蔵資料紹介 分野を越えた交流—塚本邦雄の書簡を中心に | 尾崎まゆみ |
| 短信 同人誌『G-W-G(minus)』をめぐって | 立尾 真士 |
| 『日本近代文学大辞典』と私 第五巻『新聞・雑誌』の恩恵 | 安藤 宏 |
| 川端康成記念室 秋の特別展 川端康成の新聞小説 | 石川 賢 |
| 所蔵資料研究—作家の手紙 難波卓爾宛て書簡から(1)—安西冬衛 | 加藤 桂子 |
| ◇299 2021.1 B5 16p | |
| 駒場ノート(57) 対面で文学を語りあう | 坂上 弘 |
| 加藤楸邨資料受贈/2020年度 声のライブラリー | |
| 今月の一枚 近藤浩一路の年賀状(上司小剣あて) | |
| 文学の風景 ホットスポットとしてのミュージアム | 高山羽根子 |
| わたしの蔵書から 最初から最後まで傑出した物語 | 立原 透耶 |
| その頃 高見秋子夫人との約束 | 川島かほる |
| 寄贈資料に寄せて | |
| 川島忠之助再発見の舞台裏—柳田泉が出した一通の手紙から | 中島 国彦 |
| 視点—文学と美術 式場隆三郎と四つのミュージアム | 藤井 素彦 |
| 『日本近代文学大辞典』と私 刊行当時の熱気に触れて | 宗像 和重 |
| 所蔵資料研究—作家の手紙 難波卓爾宛て書簡から(2) | |
| —稲垣足穂、井伏鱒二、小田嶽夫、嘉村磯多、川端康成 | 加藤 桂子 |

◆練馬郷土史研究会会報

〒179-0072練馬区光が丘5-2-3-806 鎌田茂男方 TEL03-3977-3091 1956年創刊

◇379 2021.1 A4 2p

練馬の城を往く(25) Gカイト(練馬区内各所) 八巻 孝夫
高札場 9月例会 東京二十三区を歩く(3) 品川区北品川界隈/11
月例会 鎌倉の中世を歩く
令和二年度実施報告

◆練馬古文書研究会会報

〒178-0065練馬区西大泉3-15-14 寒河江耕作方 TEL03-3922-5487 1985年創刊
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~tagame-y/>

◇65 2020.12 B5 4p

武蔵野の新田開発と関村井口家 柴辻 俊六
下練馬村の名主木下家 本橋 竹文
無二膏 清水ちか子
練馬の名主とその記録 寒河江耕作

◆民俗建築 日本民俗建築学会

〒162-0843新宿区市谷田町2-33 法政大学デザイン工学部建築学科内
TEL03-5228-1496 年9000円 <http://www.folkhouse.org>

◇158 2020.11 B5 96p

扉絵 山中湖付近の民家 1976年 桑野 進
巻頭言 5代目会長就任にあたり 角 幸博
2020年度大会発表研究論文
初めての住まい 佐藤 正彦
外国人の畳に対する意識：アンケート調査報告 鈴木あるの
家相見の建築的知識—松浦琴生を事例として 金澤 雄記
韓国伝統集落の空間構成の要素 朴 賛弼
ミャンマーのチン族の民家 佐藤 正彦
さいたま市に在る長屋門の棟数と木構造を調査分析 鈴木 秀視
岩手県南田仙台藩領の農家建築における居住面積と内ニワの広さの関
係についての一考察—北上川東・西地域を比較して 菊地 憲夫
創立70周年記念出版
『民家を知る旅 日本の民家見どころ案内』の刊行と今後 森 隆男
民俗建築アーカイブ(19) 佐藤重夫と巖島民家「写真・図面集」(1)
岩村家(旧・江上家)、江上家 河村 明植
One Shot Minka(26) 韓国の古民家—独楽堂の楼 朴 賛弼
2019年度一般社団法人日本民俗建築学会学会賞(竹内芳太郎賞)

| | |
|------------------------------|-------|
| 贈賞者：谷澤明氏 推薦者：林哲志氏 | 事務局 |
| 新刊紹介 | |
| 『日本の風土と景観—西地方編(韓国版)』 朴賛弼著 | 佐志原圭子 |
| 『日本の観光—昭和初期観光パンフレットに見る』 谷沢明著 | 林 哲志 |
| 文献紹介 単行本・報告書・論文 | 事務局 |

◆洋学史通信 洋学史学会

〒182-8585調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学大学院情報理工学研究科 佐藤賢一研究室気付 TEL0424-43-5592 <http://yogakushi.jp.org>

◇33 2020.12 A4 12p

随想 失われゆく医学資料 W・ミヒエル

洋学史学会2020年度後期行事

2020年度 洋学史学会若手部会の活動記録(10月末現在)

文責 阿部大地・堅田智子

書評 佐野真由子編『万博学—万国博覧会という、世界を把握する方

法』 堅田 智子

新刊紹介・自著紹介 化学史学会編『化学史事典』 八耳 俊文

新刊紹介

秋田茂・脇村孝平編『人口と健康の世界史』 青木 歳幸

『武雄鍋島家資料長崎方控・當用控』『同関係資料図版集』

『帆足万里 資料集第二巻』

神奈川県

◆うまゆみ 日本騎射協会

〒240-0107横須賀市湘南国際村1-15-3 宮川昇方 2020年創刊

<http://www.mgl-sakura.ne.jp>

◇1 2020.3 A5 15p

創刊にあたって 宮川 昇

スキタイの動物文様と日本騎射協会のマークについて 宮川 昇

Topic 和式鐙の右と左 片山 寛明

備忘録 知る事の大切さ 青木 徳彦

弓馬名人伝01 朝倉犬也入道 長塚 孝

馬のいる風景 騎馬の士とその後継者について 村井 文彦

古流発見! 『朝鮮流要馬絵巻』の射技 宮川 昇

Report 日置流印西派弓術演武 黒須 憲

表紙 諏訪大社下社 諏訪大明神大祝 金刺盛澄像

◇2 2020.12 A5 15p

源頼朝と流鏑馬行事

弓をたしなむ戦国武士

馬のいる風景 芥川賞受賞作と宮古馬

宮廷行事「騎射」の源流

伝書を読む 日置流印西派秘歌(1)

表紙の写真 朝鮮流鏑馬

川合 康

長塚 孝

長濱 幸男

宮川 昇

黒須 憲

(宮川)

◆小田原史談 小田原史談会

〒250-0021小田原市早川160 青木良一方 TEL0465-22-8852

年3000円 1961年創刊 <http://odawara-shidan.hustle.ne.jp>

◇264 2021.1 A4 32p

謹賀新年

巻頭詩 「駆けだした牛」に寄せて

表紙：井上三綱「駆けだした牛」1956年（平塚市美術館蔵）

松浦党有馬氏と小田原本家のこと 話し手：有浦寿晃さん

曾我物語を追っかける一下曾我行き

明治小田原の記憶—小西薬局・小西正蔭の巻

日本画家・近藤弘明の芸術(2)

「北条五代記」(3) 小田原北條家旗馬じるしの事／犬也入道弓馬に達

者の事／北條氏綱と上杉朝定合戦の事

謡は七色の声を持って 話し手：杉崎稔さん

片岡日記 昭和編(23) 昭和5年10月

青木 良一

田代 勉

(松島)

青木 良一

星野 和子

田代 勉

勝 四郎

(記録・青木)

片岡永左衛門

◆神奈川県立公文書館だより

〒241-0815横浜市旭区中尾1-6-1 TEL045-364-4456 1994年創刊

<https://archives.pref.kanagawa.jp>

◇43 2020.12 A4 2p

公文書館における新型コロナウイルス感染症防止対策

当館収蔵資料閲覧の方法について

「デジタルコンテンツ」と「閲覧申込電話予約」

◆かまくら女性史の会 Newsletter

〒248-0012鎌倉市御成町18-10 NPOセンター鎌倉気付 メールボックス26

2013年創刊

◇80 2021.1 A4 2p

エリアナ最後の弟子 佐多達枝さん

横松佐智子

シリーズ：私たちの「戦争体験」(1) 空襲前後の長崎屋の人々

前田 セツ

祝 旧県立近代美術館鎌倉館が国重文に

(植松)

◆県央史談 県央史談会

〒243-0033厚木市温水342 内藤佳康方 TEL046-247-1751 1961年創刊

◇60 2021.1 A5 45p

津古久峠

吉野 勝洋

松岡洋右『伝記』にみる渡米後の猪俣弥八

岩崎 稔

1964年東京五輪と厚木市

橋川 明

愛甲郡で最大の空襲があった日

千葉 弘

令和2年度事業報告 総会・史跡めぐり

◆日本地名研究所通信

〒213-0001川崎市高津区溝口1-6-10 川崎市生活文化会館4階

TEL044-812-1106 1993年創刊 <http://chimei.people.co.jp>

◇98 2020.12 B5 6p

幸震・幸福町・相ノ木清水 表紙：五箇山 相倉合掌造り

撮影・谷井進

金田 久璋

第四〇回 全国地名研究者大会の準備経過とお願い

「谷川民俗学の可能性—小さきものの声をきく—」

小田 富英

利賀村訪問記

小林 汎

全国地名研究者 利賀村大会に参加して

西村 正己

利賀村の不思議

上坂 宏子

「島根県出雲の地に、関和彦先生顕彰碑」を！

◆日本の石仏 日本石仏協会（発売：青娥書房）

〒224-0037横浜市都筑区茅ヶ崎南1-3-10-409 TEL0452-943-4409 年8000円

1977年創刊 <http://sekibutukyokai.jp>

◇172 2020.12 A5 64p 2000円

表紙の写真 丸石道祖神 山梨県笛吹市御坂町尾山

写真と文・岡田均

巻頭随想 タイムトラベル—石の記憶を未来につなごう

坂口 和子

特集 疫病

疫病と石仏—神奈川県平塚市周辺

中森 勝之

大野松齋の墓—一種痘で多くの人命を助けた奇特神妙の人

嘉津山 清

| | |
|-----------------------------|-------|
| 下総・佐倉藩領内の種痘と疱瘡神造立 | 田中 英雄 |
| 埼玉県越谷市の「疱瘡神」文字塔 | 須藤 賢一 |
| 疫病と富山の人々 | 尾田 武雄 |
| 常願寺川左岸の疫病 | 滝本やすし |
| 虎列刺菩薩と疱瘡神—山形県米沢市の事例 | 加藤 和徳 |
| 寒ざや厄除けの神にされた庚申塔—埼玉県の庚申塔より | 門間 勇 |
| 岡山県木野山神社のオオカミ像 | 下平 武 |
| 石仏論考 丸石道祖神ノート(4)—丸石信仰の展開(2) | 岡田 均 |
| 誌上講座 | |
| 石仏入門(26) 板碑・Ⅱ(板碑の素材) | 門間 勇 |
| 名号塔の知識(37) 時宗名号書体 一遍から二祖へ | 岡村 庄造 |

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021小田原市早川60 青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円

2003年創刊 <http://hikaenochou.world.coocan.jp/mysite1>

◇70 2020.12 A5 124p 500円

| | |
|-----------------------------|-------|
| 西相模の「山の辺の道」『狩野街道』探検ノート | 田代 道彌 |
| 湯河原の俳人篤執氏を偲んで | 佐宗 欣二 |
| 小説—幕末銀板写真倶楽部 ポトゲラヒ(3) | 荒河 純 |
| 酒匂だより 「季節の手帖」から | 町田紀美子 |
| 続・ボクの映画館(24) チャップリンの『独裁者』 | 平倉 正 |
| 下総国大生郷村の仕法はなぜ実施できなかったのか | 尾上 武 |
| 関東十八檀林記(13) 岩槻浄国寺 | 青木 良一 |
| 私説 皇道派将校の聲は届かず! 二・二六事件異聞(3) | 芳賀喜久雄 |
| 失われた日本人(5) 心敬 | 茂木 光春 |

◆民具研究 日本民具学会

〒221-8686横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学日本常民文化研究所内

TEL045-481-5661 年5000円 <http://www.mingu-gakkai.com>

◇161 2020.12 B5 76p

| | |
|--|--------------|
| 第44回日本民具学会大会報告「民具の生き残りをかけて」 | |
| 第44回日本民具学会大会報告 シンポジウム パネラー：櫻村賢二 | |
| 「『新鳥取県史 民俗2 民具編』編さんと民具の「保存活用」、岡田裕美「滋賀県草津市における青花紙生産技術の保存継承に向けた取り組みについて」、久津輪雅「工芸家と研究者が手を携えて、産業・教育・観光に寄与」 | 司会 大藪裕子・加藤隆志 |

学校教育における民具の活用

「地域教材」と民具 加藤 幸治
地域文化の活用を目指して一地域文化の宝箱 日高 真吾
学校教育における民具の活用—民具で何が伝わるか 三代 綾
書 評

北海道民具事典編集委員会編『北海道民具事典Ⅰ 生活用具』
北海道新聞社 内山 大介
『新鳥取県史』民俗2 民具編 佐々木長生
展示批評 那須野が原博物館企画展「うちにテレビがやってきた」 石井 和帆

◆民具マンスリー 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL045-481-5661 年3500円
1968年創刊

◇633 (53-9) 2020.12 A5 24p 350円

ガラガラ膳 堀 充宏
鳥取県北栄町主催「明治一五〇年 民具資料のお別れ展示」と民具の
「除籍(廃棄)」について(3) 榎村 賢二
民具短信 福を呼ぶ凹面八卦鏡 周 星

◇634 (53-10) 2021.1 A5 24p 350円

古代の苞苴—アラマキ・ツトの機能 小川 宏和
民具短信 電極式のパン焼き器と炊飯器 内田 隆
マンスリー掲示板 東京家政学院生活文化博物館 令和2年度 第32
回特別展「復興から未来へ—博物館と地域のこれから」

新潟県

◆ふるまち良寛てまり庵通信

〒951-8063新潟市中央区古町通2-538 TEL025-378-2202
<http://www.kokodo.co.jp/ryokankai/temarian/>

◇29 2021.1 A4 6p

表紙 「良寛さんと毯」茂木弘次作(新潟県燕市国上地内 朝日山展
望台)

あなたも是非一度 国上山を登山していませんか

良寛百態 高橋郁丸・画

付録 良寛遺墨シート 五言絶句「開庭百花発 餘香入此堂 相對

共無語 春夜々将央」良寛書 解説・小島正芳

言霊 知過則速改 執則是非真（「昨日異今日」で始まる良寛の漢詩）

一期一会

新潟良寛研究会

◆良寛だより 全国良寛会会報

〒951-8112新潟市中央区南浜通2 北方文化博物館新潟分館内

TEL025-222-2262 1978年創刊

◇171 2021.1 A4 16p

「良寛歌意 梅」（富取風堂・画）とみとり・ふうどう（明治25年～昭和58年）（出雲崎町 良寛記念館所蔵）

リレーエッセイ 良寛つれづれ(20) 良寛のご縁を次世代に継承 東條 玉英

良寛遺墨鑑賞(19) 和歌 われありと 小島 正芳

折々の良寛(60) 騰騰として天真に任す 長谷川義明

良寛190回忌記念 第43回全国良寛会玉島大会(予告)

「良寛さんの夢」渾身の力で上演 後藤田恵子

おのぶ役で出演して 仁科 恭子

各地良寛会だより(12) 和島良寛会の巻

中学と連携し新たな活動 吉野町に碑を建てる 羽鳥 仁一

相馬御風の良寛(20) 友にすべきは 金子善八郎

余韻に聞く(下) 貞心尼姿つれづれ 安達 武男

忘れ得ぬ人びと(2) 梅原猛先生のこと 加藤 儔一

良寛を今に伝えた人びと(1) 良寛の弟・由之 本間 明

良寛 仏道の詩 素描 吉田 福恵

良寛ころの歌(上) 吉井 和子

山岸楽齋と幸田文祭(中)一文祭と文泰 山上 健

良寛さんと出会った喜び 山下 厚子

トビックス

ガイドブック「良寛逸話いろいろ」を一般財団法人良寛会が発行 本間 明

会報・会誌紹介 良寛さま第102号(岡山県良寛会) 吉井 清一

良寛を訪ねて(20) 索索五合庵(燕市)(下) 吉井 清一

富 山 県

◆富山史壇 越中史談会

〒930-0115富山市茶屋町33-2 富山県公文書館内 TEL076-434-4050

1954年創刊

◇193 2020.12 A5 68p 1300円

『富山史壇第200号記念特集号』原稿募集に向けて

丹表紙本『高田大明神縁起』の再検討

山古 頌平

戦勝の願いを込めた仏画一福王寺の刀八毘沙門天曼荼羅

松山 充宏

旧制『富山高等学校図書目録』を読む

中村 哲夫

史料紹介

明治二年の「コワシガタ」について

一滑川市中山家文書中の『歳代記帖』より

浦田 正吉

人名録集に掲載された越中俳人

太田 久夫

最近の地方史情報

飛山健太郎

山 梨 県

◆地域と社会 佐藤弘

〒402-0005都留市四日市場902-3 2017年創刊

◇8 2020.12 B5 20p

集団疎開児童をとりまく環境—ノミとシラミの問題に焦点をあてて
地方工業化と地方認識

蒲原まゆみ
佐藤 弘

長 野 県

◆伊 那 伊那史学会

〒395-0081飯田市宮ノ上4048 TEL0265-22-6017 年5500円

◇1112 (69-1) 2021.1 A5 50p 550円

《民俗特集》

口絵 和合の念仏踊りを迎える宮下家と盆踊り

宮下 澄子

三信遠の霜月神楽と天龍川—天龍水系と諏訪信仰

櫻井 弘人

天龍村坂部の行事食について

関 京子

和合の暮らし覚書—宮下家二十七代善障ノートより

宮下 金善

天龍村向方最後の「宮人」

近藤 大知

◆伊那路 上伊那郷土研究会

〒399-4501伊那市西箕輪3180 山口通之方 TEL0265-73-5538 年5000円

◇767 (64-12) 2020.12 A5 40p 500円

俳人岩波其残の生涯を知る

翁 悦治

上伊那にある、奥三河石工が彫った石仏・石塔について(3)

如来・祠・板碑型の石塔

伊折 俊夫

- 文化短信 『江戸時代 羽廣村の古文書20選』 重盛 欣三
 片桐氏嫡流系図についての考察(3) 片桐 充昭
 『伊那路』第64巻総目次 令和2(2020)年 上伊那郷土研究会
 図説・上伊那の民俗(42) 畦草刈り(飯島町飯島) 三石 稔
 徒然さんば(17) 大宮五十鈴神社 駒ヶ根市 絵と文・吉田勝美
 ◇768 (65-1) 2021.1 A5 40p 500円
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う高遠中学校の対応 山崎 茂則
 伊那市にも存在した!?「十三塚」完全遺構 伊藤 和也
 伊那市が取り組む古い地名調査(19)
- 正しく、強く、努力して 円山田作翁の人生訓 桃澤 匡行
 古文書の窓(156) 麻疹と食べ物 小池 悟志
 伊那谷のレンジャク類—民俗の窓を通して(39) 吉田 保晴
 図説・上伊那の民俗(43) 三峯様の祭り(辰野町下辰野) 三石 稔
 徒然さんば(18) 松島神社 箕輪町 絵と文・吉田勝美

◆信濃 信濃史学会

- 〒399-0036松本市村井町南1-28-35 年10200円 TEL0263-58-1213
<http://www.shinano-shigakukai.jp>
- ◇851 (73-12) 2020.12 A5 104p 1150円
 《地域特集 諏訪郡》
 諏訪上社前宮御室考 鶴飼 幸雄
 『諏訪大明神絵詞』外題・奥書考 石井裕一郎
 文化六年信州諏訪郡乙事村の村方褒賞について 富善 一敏
 文政～慶応期における高島藩林目付の増員と世襲化 坂本 達彦
 諏訪大社の縁起伝承—諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢鳥家文書
 『信州諏方大明神縁起』を端緒として 二本松泰子
 地域動向 大昔調査会「おの頃を、あたらしく、おもしろく。」 高見 俊樹
 『信濃』第72巻総目次
- ◇852 (74-1) 2021.1 A5 80p 1150円
 《民俗学特集号》
 須坂祇園祭—その歴史的展開と現状 松崎 憲三
 初絵の習俗と画像資料 鈴木 英恵
 都市における伝統の継承—曾根崎露天事件を中心に 倉石 美都
 話をきく会の成立—柳田国男・橋浦泰雄の書簡から見る 胡桃澤勘司

◆長野県民俗の会会報

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円 1978年創刊

http://nagano-minzoku.chu.jp

◇43 2020.12 A5 205p

| | |
|------------------------------|-------|
| フセギとマスク | 倉石 忠彦 |
| しづかアマビエの展開—長野県松本市での実践について | 市東 真一 |
| 都市と農村との交流—市民農園の分析を通して | 松崎 憲三 |
| 地域社会における「移住者」「よそ者」をめぐる | |
| —長野県池田町A地区にて「よそ者論」の視座から | 伊藤 将人 |
| 都市化したムラの民俗学 | 福澤 昭司 |
| 中山間地域における奉納神事伝承の現在 | |
| —池田町広津地区における獅子神楽を中心に | 宮田 紀英 |
| 三峯様のかたち—「祀られ方」から見た長野県のオオカミ信仰 | 下平 武 |
| 戸隠講について | 石原 溪介 |
| 丙午生レノ女子ニ関スル調査 | 伊藤 友久 |
| 伊那谷における蜂の子食慣行のいま—伊那市を事例に | 浦山 佳恵 |
| 事例報告 「信州学」について—長野県立大学の講義から | 田澤 直人 |



* 現下の最大関心事である新型コロナウイルスの関わりで、古来海を渡ってもたらされた災厄・疫病の防禦、予防対抗措置で最も古い習俗の一つである茅の輪の習俗から、現代のマスクに及んで論じた倉石忠雄「フセギとマスク」は興味深い。

はじめに長野県におけるフセギ習俗の諸相を、『長野県史 民俗編』から、年中行事と民俗信仰における伝承として解説し、次いで、新型コロナウイルス感染にかかわる防御策として「マスクの機能」を掲げる。そもそもマスクは習俗として用いるものとして考えられていなかったから、民俗調査の対象ではなかった。そのマスクを、フセギ習俗の中に位置づけるとどうなるかを、「フセギの段階的

展開図」と「フセギの領域構造模式図」の中に置いて考察する。「マスクは、病原菌の感染予防としての機能とは異なる表象を獲得し、見えるフセギから、無形
のフセギにその機能を逸脱・拡大することになった。そのうえ政治性を獲得する
ことによって、災厄防御のために個別身体が着用するマスクは、内世界の最前線
である水際に直接対峙する存在となった」との指摘は新鮮であり、マスクが民俗
学の重要な対象となったことを実感させられる。

◆長野県民俗の会通信

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円

<http://nagano-minzoku.chu.jp>

◇281 2021.1 B5 12p

| | |
|----------------------------|-------|
| 北安曇郡池田町、松川村のオフネにかかわる祭礼(3) | 白井ひろみ |
| 「満願寺展 I 描かれた満願寺とその自然」見学の感想 | 巻山 梨子 |
| 第222回例会に参加して | 巻山 圭一 |
| 令和2年総会記念講演「祭礼と権威の民俗」感想記 | 渡辺 宏 |
| 令和2年度総会概要報告 | 田澤 直人 |

静岡 県

◆静岡県近代史研究会会報

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室
年4000円 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇508 2021.1 A4 4p

| | |
|---------------------|-------|
| 1月例会レジュメ 遠州報国隊と近代日本 | 馬塚 智也 |
| 戦後史の転換点に際会して | 森山 優 |

◆静岡県地域史研究会報

〒412-0043御殿場市新橋1891-1 厚地淳司気付 年4000円 2011年創刊

◇234 2021.1 B5 4p

| | |
|-------------------------------|-------|
| 物好きな勝頼、逃げる家康—北山・西山両本門寺の訴訟への対応 | 鈴木 将典 |
| 西海別八千石余は池田照政領 | 橋 敏夫 |
| 10月例会報告要旨 中世前期の駿河の在地領主・武士団 | 廣田 浩治 |
| 11月例会報告要旨 | |
| 戦国期の大宮司富士氏—戦国大名今川氏との関係を中心に | 鈴木 将典 |

◆静岡県民俗学会会報

〒424-0053静岡県清水区洪川1-9-35 <http://web.thn.jp/s-folklore/>

◇178 2021.1 A4 4p

令和3年 年頭のご挨拶

大嶋 善孝

第1回例会報告

勝間田仁美「神楽とコロナー静岡県御殿場市を事例に一」

(大嶋)

釜、それとも木の唐戸?

大嶋 善孝

愛知県

◆あつた 熱田神宮宮庁

〒456-8585名古屋市熱田区神宮1-1-1 Tel.052-671-4151

<http://www.atsutajingu.or.jp>

◇268 2021.1 A5 41p

年頭のご挨拶

千秋 季頼

「剣の宝庫 草薙館」の開館に向けて

福井 款彦

皇室と熱田神宮

野村 辰美

創祀千九百年記念造営事業の回顧(25)

小久保雅広

奉納和歌に見る熱田信仰(6)―この神の恵みと蝦夷の千島まで

辻村 全弘

◆郷土文化 名古屋郷土文化会

〒466-0064名古屋市昭和区鶴舞1-1-155 名古屋市鶴舞中央図書館

Tel.052-741-9822 年3000円 1946年創刊

◇234 (75-1) 2020.11 A5 124p 1500円

野田千平先生の御ことども

服部 仁

熱田神宮清雪門の伝承

辻村 全弘

太原崇学 今川義元の軍師を追う(2)

横山 住雄

三河物語 桶狭間戦いの事

尾畑 太三

信長の伯母は誰に嫁いだか

井口 友治

愛知県第二代警部長 福井藩士齊藤秋夫

澤柳倫太郎

福沢桃介と川上貞奴についての覚書

松永 直幸

尾張の俳句(2)

大野 哲夫

諸国「ういろう」考

石田 泰弘

翻刻 宇都宮綱根「多賀記行」―永田市蔵の筆記から(2)

松井 雅文

話譚五話 村上文庫蔵書 江戸時代の随筆書より

前川 芳久

◆蓬左 名古屋市蓬左文庫

〒461-0023名古屋市東区徳川町1001 TEL052-935-2173 1980年創刊

<http://housa.city.nagoya.jp>

◇100 2020.12 A4 8p

令和二年度蓬左文庫講演会(講演要旨) 元禄御昼奉行が歩いた名古屋

松村 冬樹

企画展 尾張の百科事典—『張州雑誌』

宿場町・鳴海の祭り今昔(2) 鳴海八幡宮祭

井上 善博

表紙 張州雑誌 第十三 禽類の図「河羽白」と「味臈」

内藤東甫編 100冊のうち 江戸中期 29.1cm×19.1cm

今和泉 大

滋 賀 県

◆湖国と文化 びわ湖芸術文化財団

〒520-0806大津市打出浜15-1 TEL077-523-7146 年2520円 1977年創刊

<http://www.biwako-arts.or.jp>

◇174 (45-1) 2021.1 B5 88p 600円

《特集 近江の祈り～琵琶湖文化館の至宝》

カラーグラビア 琵琶湖文化館の至宝

悠久 近江の祈り 湖と山、神と仏と民の宝

石丸 正運

琵琶湖文化館の60年 誕生～休館、そして生まれ変わりへ

井上 優

湖北で新たな守り探る ソトの村人と「観音さん」

對馬佳菜子

地域と文化財をつなぐ 縁こそ宝、「里帰り」支援

和澄 浩介

集落の仏像を守る 「お身代わり」が問う「公共」

大河内智之

問われる「県の知性」 ヒト・モノ・お金、明確な方針を

國賀由美子

休館……「これまで」と「これから」

編集室

祈りの文化財を未来へ 新・琵琶湖文化館に向けて

高梨 純次

万葉の旅人(7) 淡海の海 沖つ島山 奥まけて わが思ふ妹が 言

の繁けく(巻11-2439 作者不明(曲))

文と曲・林博通/画・鈴木靖将

森が来た道(6) 自然100選も受難、病虫獣害から守を守る!

水田有夏志

カラーグラビア 祭の美 祈りのかたち(8) 神仏・先祖と結ぶユリ

ワと花(オコナイ=長浜市木之本町杉野中)

写真・文 川島朱実

歴史の玉手箱(18) 風土病との闘い 戦後も流行「土着マラリア」 岡本 和己

海から京へ 古の大動脈 報告・塩津港遺跡(6)最終回

横田 洋三

トムさんの日野暮らし(2) 神様の家

トム・ヴィンセント

ぶらり近江はっけん伝(15) 湖東町

岸野 洋

◆戦国史と人 女風林火山 戦国史と人を学ぶ会/武田勝頼・松姫研究会

〒520-0528大津市和辻高城289-11 首藤義之方 年1400円 1987年創刊

◇66 2021.1 B5 82p

《特集 佐々木六角氏と信長・秀吉・家康(下)》

織田信長の花押は「麟」ではなく、「信長」の字を崩したもの 首藤 義之
明智光秀の前半生と佐々木六角義秀(2)

—斯波義近、足利義輝の家臣時代 首藤 義之

天海(徳川家康の側近僧侶)の正体は佐々木箕作義治説(中編) 首藤 義之

京 都 府

◆古代文化 古代学協会

〒604-8205 京都市中京区三条通高倉西入ル菱屋町48 TEL075-252-3000

年8000円 <http://kodaigaku.org>

◇72-3 2020.12 B5 163p 2500円

檀木原瓦窯の造瓦技術とその展開 新尺 雅弘

特輯 東北地方の「弥生文化」を外からの視点で考える

特輯「東北地方の「弥生文化」を外からの視点で考える」に寄せて

斎野 裕彦

土器から見た縄文・弥生移行期の東北地方北半部

三浦 一樹

土器から見た縄文・弥生移行期の東北地方南半部

妹尾 一樹

有角石器の分布と意義

小林 嵩

弥生時代東北地方の木工技術と系譜

鶴来 航介

真言寺院仁和寺の成立—「宗旨替え」の再検討

泰地 翔大

古代エジプトにおける動物崇拜の盛衰

清水麻里奈

長岡京跡および周辺で採集された軒瓦

國下多美樹／前田詞子

伊東信雄先生の業績をたどる

桑原 滋郎

『小右記』註釈(23) 長和4年5月22日条

丸川 優希

私の古代学(21) せとものの源流を探る

—「知られざる古代の名陶」猿投窯の研究

城ヶ谷和広

仁和寺の歴史と文化財(3)

弘法大師空海が請来した三十帖冊子とその伝来の歴史

朝川 美幸

追悼 関口力さんを偲ぶ

近藤 好和

図版解説 城陽市水主神社東遺跡の調査成果

小泉裕司／福山博章

書評 大阪市立大学・難波宮研究会編『日本史研究叢刊36 難波宮と

大化改新』

市 大樹

新刊紹介

| | |
|----------------------------------|-------|
| 都出比呂志著『古墳時代に魅せられて』 | 三好 玄 |
| 海野聡編『文化遺産と〈復元学〉遺跡・建築・庭園復元の理論と実践』 | 森岡 秀人 |
| 三谷芳幸著『大地の古代史—土地の生命力を信じた人びと』 | 早川 万年 |
| 大工原豊・長田友也・建石徹編『縄文石器提要』 | 大野 薫 |

◆史迹と美術 史迹美術同致会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入西大路町146 中西ビル内
TEL075-462-4292 年8000円 1930年創刊 <https://www.shibikai1930.com>

◇910 (90-10) 2020.12 A5 36p 916円

| | |
|-------------------------------|-------|
| 興福寺講堂曼荼羅図について | 小山 正文 |
| 奈良の大寺 層塔の話題三題(下) | 村田 和義 |
| 第1068回例会 八幡市の文化財を訪ねて—東高野街道を歩く | 中尾 純子 |
| 2020年度 石造美術勉強会活動記録 | 品角阿止美 |
| 第九十輯(自901至910)総合目録 | |

◆史談福智山 福知山史談会

〒620-0883福知山市本堀1430 中村邦夫方 TEL0773-22-2737

◇804 2019.3 B5 6p

| | |
|--------------|-------|
| 山口正世司先生追悼 再び | 尾松 克巳 |
| 山口正世司先生追悼 | 河波 司 |

山口正世司先生追悼 茶人でもあった山口正世司先生 藤本九三氏の
足跡をたどって山口、塩見氏ら穂高、槍ヶ岳を縦走(山陰日日新聞
より)

| | |
|--------------------|------|
| 福知山故城図を描いた用瀬徳全について | 大槻 伸 |
|--------------------|------|

◇805 2019.4 B5 6p

| | |
|--------------------------------|------|
| 上六人部愛信会について(1) 蚕(かいこ)／繭(まゆ) | 荒田 直 |
|--------------------------------|------|

◇806 2019.5 B5 4p

| | |
|-------------------------------|------|
| 上六人部愛信会について(2) 糸車(糸巻)と杼(ひ) | 荒田 直 |
|-------------------------------|------|

◇807 2019.6 B5 6p

| | |
|--|------|
| 上六人部愛信会について(3) 大江町の養蚕の恩人・千松 「大江ふるさと学」より | 荒田 直 |
|--|------|

◇808 2019.7 B5 6p

| | |
|-----------|-------|
| 延宝の飢饉について | 佐古田廣文 |
|-----------|-------|

- 自然のおやつ ケンポナシ 大槻 伸
 書齋訪問記 寺本吉勝さん宅 会報部・岡垣
 ◇809 2019.8 B5 6p
 河守城・浄仙寺と明智光秀 村上 政市
 明治の宝物調査について 大槻 伸
 深泥(みぞろ)一人百首 ミツヒデさんの家臣・斎藤利三(1)「春日局
 は家臣の娘 大河ドラマじゃ先越され」(025)／ミツヒデさんの家
 臣・斎藤利三(2)「美濃の蝮と一字違い 親戚筋ではありません」
 (026) 尾松 克巳
 ◇別冊 2020.9 B5 8p
 福知山史談会会報「史談ふくち山」目録 その七 701号より800号
 ◇番外号 2020.10 B5 20p
 明智光秀と福知山 村上 政市
 ついに麒麟がくる
 R1.11.10 ハピネス 福知山史談会会員研究発表会 中村 邦夫

◆都藝泥布 京都地名研究会通信

〒610-1126京都市西京区大原野上里男鹿町14-5 入江成治方 FAX075-331-3431
 年3000円 2002年創刊 <http://kyotochimei.wix.com/kyotochimie/>

- ◇72 2020.12 A4 8p
 第56回地名フォーラム開催中止について
 第55回地名フォーラム報告
 研究発表「宇治橋三の間と橋姫」 発表者：小寺慶昭 小寺 慶昭
 講演「宇治・南山城の文学地名一山吹の瀬・相楽山・宇治山」
 小西亘氏
 地名随想 「近江商人」について(2) 岩田 貢
 会員の著作紹介 笹川博司氏『源氏物語と遁世思想』、三十六歌仙の
 世界 公任『三十六人撰』解説／淡海文庫67 近江の狛犬を楽しむ
 小寺慶昭
 地名随想 一口に新珍説(?)登場 小寺 慶昭
 地名こぼれ話 烏丸はいつから「からすま」と読むのか 入江 成治

◆土車 古代学研究所だより 古代学協会

〒604-8131 京都市中京区三条通高倉西入ル菱屋町48 TEL075-252-3000
<http://kodaigaku.org>

- ◇140 2020.12 B5 8p

| | |
|---|-------|
| 角田文衛旧蔵 河内国某田地売券 | 長村 祥知 |
| 東アジアの『論語』 | 富谷 至 |
| 弥生文化期の高地性集落 その再検証に向けてのプログラムへの期待 と夢 | 森岡 秀人 |
| 阿武山古墳発見の頃 | 角田 文衛 |
| 角田稿「阿武山古墳発見の頃」に寄せて | 森田 克行 |
| 古代宮都歴史散策事業 歴史散策と講演会の開催 | |
| 出版だより 『平安人物志 上・下』（角田文衛著作集第五巻・第六巻） 宝蔵館文庫第7弾 | |

大 阪 府

◆泉佐野の歴史と今を知る会報

〒596-0845岸和田市阿間河滝1425 井田寿邦方 TEL0724-28-0204
年1200円 <http://www.eonet.ne.jp/~sanonokai/>

◇396 2020.12 B5 16p

| | |
|--------------------------------|-------|
| 文字資料から見た新家山田家主屋の改築年第と紀年銘瓦 | 下村 欣司 |
| お地藏さんめぐり | 北山 理 |
| 室町幕府中枢の動きと和泉(22) 九 信長・秀吉の登場(続) | |
| (4) 信長と大坂本願寺の対立(1574~80) | 井田 寿邦 |
| 現代語訳「食家と佐野と海」(4) | 二山 和美 |
| 史料 佐野村の寺社(9) 藤田家文書「佐野村寺社帳」(9) | |

◇397 2021.1 B5 12p

| | |
|----------------------------------|-------|
| 和泉上守護細川元常被官丹常直について | 嶋中 佳輝 |
| 樫井太兵衛と関ヶ原合戦—土佐藩士となった和泉の武士 | 廣田 浩治 |
| 現代語訳「食家と佐野と海」(5) | 二山 和美 |
| 史料紹介 泉州の寺社(10) 藤田家文書「佐野村寺社帳」(10) | |

◆大阪民衆史研究 大阪民衆史研究会

〒599-0223阪南市光陽台4-5-25 林耕二気付 TEL072-471-8601 1993年創刊
<http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~minshusi/>

◇73 2020.12 A5 126p 1000円

| | |
|------------------------------|-------|
| スペイン風邪流行と大阪 新聞と統計を中心に | 石原 佳子 |
| 『日露戦争實記』に見る戦況報道と銃後社会の受け止めの事例 | 横山 篤夫 |
| 志摩市安乗の祭礼—故郷の伝統行事について | 尾崎 翔 |
| 永井孝弘氏 特別幹部候補生の修養録(下) | |

—アジア太平洋戦争末期の下士官候補生の訓練日誌 高谷 均
「火垂るの墓」記念碑 ついに建立

—記念碑建立までの道程とその意義 二宮 一郎
グラビア フィールド「火垂るの墓」記念碑とアンネのバラの教会

案内と文・二宮一郎

会員の編著書 赤塚康雄著『新制中学の誕生 昭和のなにわ学校物語』、戦前大阪外語社研研究会編『戦前大阪外語社研研究会会報』創刊号、石月静恵・大阪女性史研究会編著『女性ネットワークの誕生 全関西婦人連合会の成立と活動』、神阪京華僑口述記録研究会編『聞き書き・関西華僑のライフヒストリー』第10号、熊井三郎著『ペンツ 風にのって』熊井三郎詩集、森田敏彦著『兵士の碑—近代大阪の民衆と戦争』、久保在久著『大阪砲兵工廠年表』、松浦由美子著『大阪上六に文化の灯をともし続けた30年』、クリアファイル『島田邦二郎史料集成—淡路島の「自由民権」と憲法構想』

◆大阪歴史懇談会会報

〒536-0008大阪市城東区関目2-3-2 アンティークショップ一兵内 TEL06-6931-1081 年5000円 1984年創刊 <http://osakarekikon.cocolog-nifty.com>

◇433 (37-11) 2020.11 B5 8p

巻頭言 神のおやしらのこと(55) 赤手拭稲荷神社 和久 敦也
令和2年10月例会報告(第403回)「元暦二年の大地震と『方丈記』—
源平内乱との関係で 高橋昌明氏 (報告・和久)

会員講座 第34回「西国守護大名『大内氏』の治績を検証」—補訂
本会理事 小林司氏 (報告・和久)

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『坂本龍馬から
の手紙』(増補改訂版)宮川禎一、『坂本龍馬と明治維新』マリア
ス・B・ジャンセン(著)平尾道雄・浜田亀吉(訳)、『龍馬史』(文
春文庫)織田道史、『「坂本龍馬」の誕生』—船中八策と坂崎紫潤

◇434 (37-12) 2020.12 B5 8p

巻頭言 神のおやしらのこと(56) 安倍清明神社 和久 敦也
令和2年11月例会報告(第404回)「日本人の麗しい心情」—日本史上の
『ノーサイド』的精神 片倉穰氏 (報告・井川)

令和2年度秋の見学会 『京の玄関口 伏見の港』
案内人:本会理事 和久敦也氏・本会理事 白須一信氏 (報告・和久)

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『関ヶ原合戦と
大坂の陣』(戦争の日本史17) 笠谷和比古、『大坂の陣 豊臣方人

物事典』 柏木輝久(著)・北川央(監修) 宮帯出版社、『大坂落城
戦国終焉の舞台』(角川選書) 渡邊大門、『大坂の陣と豊臣秀頼』(敗
者の日本史)

◆近畿文化 近畿文化会

〒543-0001大阪市天王寺区上本町6-5-13 上本町YUFURA 7階
Tel.06-6775-3686 年2200円

◇854 2021.1 A4 8p 300円

謡曲『龍田』と金剛流発祥之地
阿部丘陵の古墳をめぐる

池田 淳
来村多加史

◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒573-0084枚方市香里ヶ丘6-4-9 上遠野浩一方 年4000円 1995年創刊
<http://www7.ocn.ne.jp/~kodaishi/>

◇102 2021.1 A5 64p 1500円

巻頭言 古代日本と家族類型
道鏡と西大寺
考古資料と『日本書紀』(下)

河越 尚司
寺西 貞弘

—古代氏族ヲハリ(尾張)氏とムゲツ(身毛津)氏で考える
アンデス通信(55) 古代アンデス文明とイコノグラフィー研究
歴史像の構築と日本考古学上の年代問題

尾関 章
市木 尚利

—そのメカニズム理解と無理解をめぐる
新刊紹介 小笠原好彦著『検証 奈良の古代遺跡』、『検証 奈良の古
代仏教遺跡』

森岡 秀人
上遠野浩一

—光三尊像のルーツについて—考察(2)

山下 輝幸

◆左海民俗 堺民俗会

〒593-8302堺市西区北条町2丁10-11 佐原浩二方 Tel.072-275-8588 年3000円
<https://ameblo.jp/skmz2014>

◇165 2021.1 B5 6p

河内鑄物師(1)

光田 三生

甕(もたい)の中に封じること

岸 繁司

特集 新型コロナ感染症蔓延下での暮らし

新型コロナ感染症の経緯と民俗会の活動

佐原 浩二

新型コロナウィルスとカタカナ語と私

宇都 隆洋

コロナウィルス禍に於ける私の活動

下谷 佐吉

◆城だより 日本古城友の会

〒577-0044大阪市西成区玉出中2-11-28 平川大輔方 Tel.06-6652-4511

<http://www.kojyo-tomonokai.com>

◇624 2020.12 B5 30p

11月・第685回例会の報告(飯盛城) 担当幹事:下岡力・水品弘樹 報告・下岡力
対馬・壱岐のお城を訪ねて(3)

亀丘城・勝本城・高津城・生池城 高菅 純子
高山城と大和国人鷹山氏 二瓶 久美

別冊 第686回例会 令和2年(2020)12月6日 近江 水口岡山城を訪
ねて 案内講師:中井均教授 担当幹事:中西徹・森田又一

◇625 2021.1 B5 22p

日本古城友の会 総会 令和2年度の例会(概要報告)

12月・第686回例会の報告 近江 水口岡山城

担当幹事:中西徹・森田又一 報告・森田又一
淡路白巣城を訪ねて 坂本 昇
光秀関連の城 勝龍寺城の見学 水品 弘樹

◆つどい 豊中歴史同好会

〒560-0054豊中市桜の町4-6-27-208 小川滋方 月1000円

1988年創刊 <http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>

◇395 2020.12 B5 16p

大化三年七色十三階制度について一威信財から色へ 内田 正俊
読書室 『埋葬からみた古墳時代 女性・親族・王権』 清家章
柏原市内(大和川右岸)の遺跡を訪ねる 大高 敬雄

◇396 2021.1 B5 18p

一陽来復 妙音三天女絵(新家莊平 画・石尾賢一 撮影) 石尾 賢一
樹木年輪からみた古代の気候変動(前編) 西川 寿勝
読書室 佐藤洋一郎著 米の日本史(中央公論社)
石上神宮・天理参考館と周辺古墳を訪ねる 小川 滋

◆ヒストリア 大阪歴史学会

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科

古市晃研究室気付 1951年創刊 <http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>

◇283 2020.12 A5 91p 900円

古代日本における地方行政監察使の特質

| | |
|-------------------------------|--------|
| —〈個別派遣型〉を中心として | 橋本 剛 |
| わたしたちの文化財 富田林市指定文化財「富田林寺内町絵図」 | 桑本 彰子 |
| 地域の歴史を守り伝える 亀岡古文書を読む会の取り組み | 金山 真樹 |
| 書 評 | |
| 長谷部将司著『日本古代の記憶と典籍』 | 榎村 寛之 |
| 宮川麻紀著『日本古代の交易と社会』 | 吉野 秋二 |
| 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』 | 木土 博成 |
| 森靖夫著『「国家総動員」の時代—比較の視座から』 | 矢嶋 光 |
| 新刊紹介 小田康徳編著『旧真田山陸軍墓地、墓標との対話』 | 木村 美幸 |
| 報 告 | |
| 日本学会議会議員の任命拒否問題をめぐって | 大阪歴史学会 |
| ユニチカ記念館の建物の歴史的価値について | 笠原 一人 |

兵 庫 県

◆家系研究 家系研究協議会

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921
 年5000円 1981年創刊 <http://www.geocities.jp/kakenkyou/>

◇70改訂版 2020.12 B5 161p 1800円

《家系研究協議会 創立四十周年記念号》

| | |
|-----------------------------|-------|
| 仙石権兵衛秀久の祖系と族裔諸氏 | 宝賀 寿男 |
| 古書に見える珍姓・難読姓(2) | 安原 繁利 |
| 創立四十周年を祝して | 田村 紘一 |
| 古代氏族の移動と野菜のルーツについて(課題意識の提案) | 斎藤 秀幸 |
| 先祖調べは大人の総合学習 | |
| —SNS時代の特性を生かしたデジタルとアナログの融合 | 野口 裕子 |
| 清和土岐源氏 明智光秀の系図の謎 | 安居 隆行 |
| 江戸幕臣三井氏の系譜 | 三井 久安 |
| 続・定専坊の楠氏系譜の調査 | 岡田 有史 |
| 『尊卑分脈』以前の系図から導き出される河内源氏の正統 | 真野 信治 |
| コヒマ | 高原 裕司 |
| 紀姓平山氏関係の系図について | 平山 且清 |
| 洪江氏の系図に関する疑問について(2) | |
| —南北朝期の公経、公重のこと | 山邊 尚幸 |
| 推論 明智光秀～出自から本能寺の変迄 | 真野 幹也 |
| 薩摩刀匠 浪平正国一千年秘話 刀鍛冶の里(11-2) | 浪平 博司 |

家系研究協会の歩み(最近10年間)
会誌「家系研究」バックナンバー詳細

事務局
事務局

◆西宮文化協会会報

〒662-0974西宮市社家町1-17 西宮神社内 TEL0798-33-0321

<http://nishinomiy-ebisu.com/bunkyo/>

◇633 2020.12 B5 8p

西宮宿あれこれ(4) 幕末の様相

山下 忠男

「西宮大神本紀絵巻」復元裏話(3) 逆さ門松と居籠のこと

土井久美子

行事案内 十日戎 えびすの祝舞「二胡二胡のえべっさま」

会員活動報告 交通栄誉賞「緑十字銅章」を受章

山本 純子

◇634 2021.1 B5 8p

11月行事 秋の見学会

石井弘明先生「えびすの森」について大いに語る

江崎健一郎

えびすかき道中記 大分県佐伯市編

武地 秀実

日本酒に関連する唯一の日本遺産「伊丹諸白」と「灘の生一本」下

り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郎

笠井今日子

会員活動報告 (公財)古都飛鳥保存財団が記念誌刊行

中村宏／山本純子

◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中印刷出版内 TEL078-871-0551

年3000円 1962年創刊

◇343 (59-6) 2020.12 A5 49p 600円

《特集 古代渡来人・秦氏研究の最前線と地域社会》

文献史料から見た播磨の秦氏

古市 晃

考古学から見た播磨の渡来人と秦氏

中久保辰夫

旧赤穂郡における「秦氏」

山中 良平

揖保郡少宅里の秦氏

岸本 道昭

地域から「秦氏を学ぶ会」の活動 ゆかりの神社マップ作り目標に

宮崎 素一

秦氏伝承の学びの機運生んだ能楽

西田美恵子

菊川兼男氏が逝去

新聞地域版を読む 神戸新聞の文化財記事(2014年9月12日～9月22日)

大國正美／有吉康徳

奈良県

◆大美和 大神神社

〒633-8538桜井市三輪 TEL0744-42-6633 <http://www.oomiwa.or.jp>

◇140 2021.1 B5 68p

年頭ご挨拶

鈴木 寛治

ミワとサキ河一声に伝承されている秘義

木村 紀子

三輪大御輪寺の信仰と聖林寺十一面観音

大矢 良哲

神話論理を生きる三輪山

中沢 新一

日本書紀修史奏上一三〇〇年

広 報 課

秋の真の名曲「三輪」

松岡 心平

三島由紀夫さんの御参拝

広 報 課

和歌山県

◆熊野 紀南文化財研究会

〒646-0051田辺市稲成町392 高山寺 曾我部大剛方 TEL0739-22-0274

年3000円 1969年創刊

◇159 2020.11 A5 57p

宇多法皇の熊野御幸について

寺西 貞弘

楊貴妃と熊野権現垂迹縁起と飛行三鈷

—中世の熊野信仰の正体に関する仮説(3)

藁 虫

室町期～江戸期初頭の熊野地域史

—織豊大名・堀内氏と熊野新宮および那智山(4)

阪本 敏行

未完の毛利清雅宛南方熊楠書簡

—昭和天皇田辺湾行幸をめぐり投函されなかった手紙

岸本 昌也

郷土関係新刊紹介 紀伊半島西部沿岸地域における言語の動態的研究

／熊野から読み解く記紀神話／木地屋幻想 紀伊の森の漂泊民／満

洲開拓団棄民の私／熊野修験／写真集 熊野逍遙

◆和歌山地方史研究 和歌山地方史研究会

〒649-6258岩出市山980-2-1312 江本英雄方 年3000円 1980年創刊

<http://wakayamachihoshi.hp.infoseek.co.jp>

◇80 2020.12 A5 152p

特集 紀州徳川家ゆかりの和歌浦・圓珠院の歴史と文化財

特集にあたって

| | |
|----------------------------|-------|
| 圓珠院の成立と展開—由緒・宗派・本末関係を中心に | 栗原 正東 |
| 江戸期の圓珠院—無縁・無旦寺院の運営 | 糸川 嵐太 |
| 近世～近代、圓珠院境内の景観変遷 | 藤本清二郎 |
| 圓珠院の建築について | 御船 達雄 |
| 圓珠院美術工芸品調査報告—紀伊徳川家関係作品を中心に | 松原 瑞枝 |
| 圓珠院所蔵の文芸書について | 牧田りゑ子 |
| 堺市博物館蔵「紀州藩参勤交代行列図巻」について | |
| —景観年代に関する一考察 | 川嶋美貴子 |
| 友ヶ島火薬本庫の研究—要塞島の保存と活用に向けて | 武内 雅人 |
| 色川の集落景観と荒木家住宅について | 山本 新平 |
| 動向 2020年度和歌山県内展覧会情報(追録) | |

島根県

◆郷土石見

〒697-0017浜田市原井町1023-9 森脇晋平方 1976年創刊

◇115 2021.1 A5 144p 1200円

《創刊45周年記念号》

表紙写真 石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ(大田市三瓶町ほか)

写真・文 大田市教育委員会

創刊45周年によせて

二人のキーパーソン—「郷土石見」創刊四五周年に憶う

岩町 功

『郷土石見』と私の思い出

児島 俊平

ペスタロッチの学徒たち～津田萬夫主事(校長絵)と原井校の訓導たち

岩町 功

石見銀山大盛時代の漁業と海運(補遺Ⅱ)

—海から見た二つの銀山「仙ノ山」史考

児島 俊平

石見銀山の石造アーチ橋を探る(1)—五百羅漢石造アーチ橋

岡本 晋平

田畑修一郎と昭和文学の源泉—社会学者・渡辺菊雄の遺稿から

高田 肇

私生活を綴った歌日記—人麻呂歌集についての考察(1)

安達 肇

海洋学者・丸川久俊の研究を読む(8) オホーツク海の“怪光”

森脇 晋平

東平原右京塚について

岡本 潤

文芸 兼連

岩田 昇

町から村から

バルチック艦隊の石炭—石炭の熱量測定

中川 平介

- | | |
|--|-------|
| 伊豆半島と浜田藩 | 野田 悦基 |
| 浜田市に駅鈴モニュメント設置 | 斎藤 晴子 |
| その他 第2回「大元・石見神楽調査研究賞」決定発表 | |
| その他 第2回「大元・石見神楽調査研究賞」優秀賞 | |
| 神楽米に見る大元神楽から百姓舞への移行 | 隅田 正三 |
| 会員の新刊紹介 『随想 山陰あれこれ』酒井董美著、三宅御土居跡 の保存とその後—歴史のまちづくり30年 石西の歴史と考古を語る 会記念誌編集委員 | |

岡山県

◆宇喜多家史談会会報

〒700-0826岡山市北区磨屋町6-28 光珍寺内 TEL086-222-2028 年2000円
2002年創刊

◇77 2021.1 A4 10p

- | | |
|------------------------------|-------|
| 宇喜多家史談会設立二十年から 秀家卿生誕四五〇年に向けて | 天野 勝昭 |
| 宇喜多氏と覇権を争った備中三村氏について | 内池 英樹 |
| 天正十五年以前の宇喜多秀家 | 大西 泰正 |
| 物語直家記伝 西大寺辺の城 第47回 転変(3) | 山重十五郎 |
| 会員サロン 宇喜多秀家卿潜居地跡で植樹祭のご報告 | 石渡 隆純 |
| 宇喜多氏関連遺跡の写真展(15) | 矢部 隆正 |

◆岡山地方史研究 岡山地方史研究会

〒704-8113岡山市東区西大寺上2-6-36 村上岳方 TEL086-942-6156
年1500円 1986年創刊

<http://homepage3.nifty.com/okayama-chiho/chiho/c-main.htm>

◇152 2020.12 B5 35p

- | | |
|----------------------------|-------|
| 戦国・織豊期における宇喜多氏の家中編制(2) | |
| 一主に「戸川家譜」・「浦上宇喜多両家記」を素材として | 森 俊弘 |
| 書評 松岡弘之著『ハンセン病療養所と自治の歴史』 | 佐々木 啓 |
| 歴史随想 災害と博物館 | 久住祐一郎 |

◆岡山民俗 岡山民俗学会

〒703-8421岡山市中区高島新屋敷382-14 難波俊成方 年4000円
1949年創刊 <http://okayamaminzokugakkai.web.fc2.com>

◇241 2020.12 B5 86p

| | |
|-------------------------------|-------|
| 紀伊児島五流の歴史と伝承 | 宮家 準 |
| 岩瀬文庫蔵『見聞随筆』の六十六部関係記事 | 小嶋 博巳 |
| 岡山藩の長寿褒賞と跣物行列—安政三年西大寺町跣物行列を例に | 田仲 豊 |
| 岡山市東区瀬戸町における久米右衛門派の信仰 | |
| —現代に伝わる不受不施派の内信 | 平松 典晃 |
| 岡山県新見市長屋の人柱伝説 | 原田 信之 |
| 「くぐる」試論 | 永原 順子 |
| 書評と紹介 | |
| 加藤正春著『奄美沖縄の靈魂観—一生と死の民俗論理』 | 田島 吉章 |
| 立石憲利編著『新庄村の暮らしと俗信』 | 大倉 寿仁 |

◆きび野 岡山県郷土文化財団

〒700-0822岡山市北区表町1-7-15 702号 TEL086-233-2505

<http://www.o-bunka.or.jp>

◇160 2021.1 A5 14p

表紙説明 原田直次郎『上野東照宮』明治22(1889)年

油彩・カンバス 86.0×71.0cm (岡山県立美術館所蔵)

年頭にあたって コロナの今 そしてその向こうに

岡山の人物(99) 平井武策

岡山の自然(155) 圓通寺の寿の松

岡山の文化財(155) 明治記念館

わが町・わが村の自慢 真庭市立湯原図書館(真庭市)

ふるさとの思い出 中橋の梅檀木稻荷神社(岡山市中区)

会員だより 平賀元義との出会い

廣瀬 就久

波田 善夫

木下 浩

日下 隆春

鳥越 昌

渡部 秀人

広島県

◆備陽史探訪 備陽史探訪の会

〒720-0824福山市多治米町5-19-8 TEL084-953-6157 <http://bingo-history.net>

◇217 2021.3 A4 20p

備後国衆列伝(5) 世羅郡の長井氏

田口 義之

田口義之の備後山城50選(42) 大田庄の拠点 今高野山城

調査報告 進化する縄張り図～芦田町利鎌山城を例に

杉本 憲宏

研究レポート 道三町の謎(1)—道三町移動説

瀬良 泰三

小林悠一のかんたん古文書講座(4)

小林 悠一

調査報告 中世石造物の調査報告

文責・篠原芳秀

近世福山の歴史講座 水野家四代勝種治世

| | |
|---------------------------|-------|
| 第二部 勝種初入り国後の福山藩 | 高木 康彦 |
| 備後史談 『日本書紀』の吉備国(3) 神武が来る | 若林 啓文 |
| 郷土探訪 城下本町を歩いて思う | 戸田 隆啓 |
| 例会報告 バス例会 炎の陽明学者 山田方谷に学ぶ2 | 岡田宏一郎 |
| 追悼 | |
| 後藤匡史さん | 曾我部 光 |
| 馬屋原(亭)さんの思い出 | 田口 義之 |

◆わが町三原 みはら歴史と観光の会

〒723-0051三原市宮浦6-9-32 鈴木方 年3600円 FAX0848-63-9932

◇358 2021.1 B5 12p

表紙 臥牛の石像(新倉 大須賀神社…牛神社) 画・上田嘉信(西宮)

| | |
|------------------------------|-------|
| 今月の各地 新年の挨拶 | 上田 嘉信 |
| 日本の牛と馬、交通の歴史(8) 第3章 江戸時代を見る眼 | 三好 邦範 |
| 消えゆく三原の近代化遺産(7) 帝人 | 西村 雅幸 |
| 神明当屋帖 その二 より(2) | 定森 總治 |

福岡県

◆九州史学 九州史学研究会

〒819-0395福岡市西区元岡744 イースト一号館 九州大学文学部日本史学研究会
究室内 TEL092-802-5098 1956年創刊

http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~his_jap/kyushusigaku/

◇186 2020.11 B5 67p

黒田荘一円寺領化過程の再検討

| | |
|----------------------------|-------|
| 一その荘園成立史における位置づけをめぐって | 張 思捷 |
| 2019年度九州史学研究会大会公開講演 | |
| 中近世移行期の貨幣流通と石高制 | 本多 博之 |
| 公開講演に関する特別寄稿 | |
| 九～一〇世紀の人口変動についての覚書 | 坂上 康俊 |
| 2019年度九州史学研究会大会公開講演・研究発表要旨 | |
| 公開講演 | |
| 古代末期福岡平野における集落の変貌 | 坂上 康俊 |
| 中近世移行期の貨幣流通と石高制 | 本多 博之 |
| 研究発表 | |

| | |
|-------------------------------|-------|
| 大宰府の廃止をめぐる | 重松 敏彦 |
| 大隅忌寸公足に関する基礎的研究 | 菊池 達也 |
| 中世日本の禅宗における医療と僧侶 | 日比 雅樹 |
| 戦国大名毛利氏の防長両国支配と山口奉行 | 水野 椋太 |
| 戦国期豊前長野氏と戦国大名 | 佐藤 凌成 |
| 昭和戦前期における右翼運動と出版警察 | 高野 恵 |
| 久留米市立中央図書館所蔵古文書・和漢籍資料の伝来過程と構成 | |
| 一旧久留米藩主有馬家旧蔵資料を中心に | 中村 江里 |
| シンポジウム 「役」から近世史を見直す | |
| 江戸市街地造成普請からみる徳川家康の権力 | 川路 祥隆 |
| 土佐藩における「預人」 | 石畑 匡基 |
| 琉球使節に関わる大名課役一淀川における川御座船の提供 | 木土 博成 |
| 彙報 歴史資源部会について | 日比野利信 |

宮 崎 県

◆石の証言 「八紘一字」の塔を考える会

〒880-0026宮崎市波島2-30-2 佐藤文則方 年2000円 1995年創刊

<https://hakkouitiunotou.jimdo.com>

◇100 2021.1 A4 12p

石の証言 防協全羅北道支部 朝鮮防共協会全羅北道支部

新年を迎えて／会員になりませんか

税田啓一郎

特別寄稿 《コロナ時代》の記憶と記録 「石の証言」第100号によせて

南 邦和

「石の証言」第100号に寄せて “過去と向き合う”

有原 誠治

漫画映画と戦争 2020年12月

有原 誠治

塔建設80年記念シンポジウム 「八紘一字」をどうとらえるか？

パネリスト：村上直巳さん・福田鉄文さん・関周一さん・追込敏弘さん

塔建設80年記念シンポジウム 「八紘一字」をどうとらえるか？

開会あいさつ

税田啓一郎

「歴史」を証言する「八紘一字」の塔

土岐 宗春

コーディネーターとしてシンポジウムを振り返って

杉尾 宏

塔建設80年記念シンポジウムの感想文から

沖縄戦と「黎明之塔」(3)

5. 沖縄戦とは、どういう戦争であったのか—沖縄守備軍第32軍

野崎 眞公

トピックス



*宮崎市の平和台公園に立つ八紘之基柱(あめつちのもととはしら)は、八紘一字の精神を体現させたいとの宮崎県知事の提言で、1940年に紀元二千六百年を記念して建立された。戦後、GHQの命令で、「八紘一字」の碑文などが撤去され、1957年に「平和の塔」に改称、しかし1965年には「八紘一字」の文字が復元されるなど、幾多の転変を経て今日に至っている。塔の礎石は日本全国と、植民地下の国々から献石された。

「塔建設80年記念シンポジウム 『八紘一字』の塔をどうとらえるか?」における、「八紘一字」の塔を考える会 税田啓一郎会長の挨拶によれば、1991年に宮崎市を訪ねたアニメ映画監督の有原誠治氏が礎石に刻まれた献石団体名などの文字・言葉に注目し、調査を始めたことをきっかけに、関心をもった市民が同年に「平和の塔の史実を考える会」(後に現行に改称)を発足させた。会の活動目的は、①塔建設の史実を調査・研究する、②戦前・戦中・戦後の現代史を学ぶ、③全国各地の現代史掘り起こし活動と交流するというものである。翌1992年には「会報」を発行、後に、本号で「『コロナ時代』の記憶と記録 「石の証言」第100号によせて」を寄稿している詩人 南邦和氏の提唱で現誌名に改名された。

南氏は、戦争体験ばかりでなく戦後体験すらも記憶が風化(語り部の不在)する今日、同時代の「記録」の重要(その価値)はますます高まっていると指摘する。

また有原誠治氏は、塔にはめ込まれている「外地」の石に注目したのは、それを送ってきた日本の軍隊がどのようなものであったかを調べることで、より侵略の塔であることを鮮明にできるのではないかとの思いがあったからだと述べる。さらに、戦中に漫画映画が子どもたちを戦争に駆り立てたことに触れ、近年自衛隊員が活躍するアニメ作品が多くなったことから、今またアニメが戦争準備に利用され、子どもたちに戦争に夢中にさせるメディアとして利用されつつあるのではないかと危惧する。

シンポジウムのコーディネータ土岐宗春氏は、塔は歴史学習の生きた教材であるとし、同じく杉尾宏氏は、加害の戦跡である塔を文化財として認定することは、イデオロギー（歴史認識）上の対立が伴い、対立を克服するのは難しい問題だが、戦争の悲惨さを後世に伝える戦争遺産として捉え直す必要があるとの課題を提起する。

南氏は、『石の証言』の100号が、「この国の『近現代史』を補強する貴重な資料(史料)を積み上げてきた」と評価する。まったくそのとおりであると思う。さらなる継続を期待したい。

鹿 児 島 県

◆鹿児島民俗 鹿児島民俗学会

〒890-0056鹿児島市下荒田4-1-18 阿多利昭方 TEL099-253-1775 年4000円
1950年創刊

◇158 2020.12 B5 145p

表紙写真解説 鹿児島市谷山草野のガロー

表紙：鹿児島市谷山草野貝塚下のガロー(2020年8月29日撮影)

| | |
|--------------------------------|--------|
| 妖怪・幽霊の民俗語彙 | 橋口 満 |
| 甗島のトシドン行事 | 牧島 知子 |
| 奄美のカンショ栽培—山奥の急峻地で収穫 | 名越 護 |
| 奄美のケンムン考—自然守る道化者 | 名越 護 |
| 幕末期 膝素立之墓と昇家の婚姻 | 名越 護 |
| わたしの昭和(6) 台湾から志布志へ(昭和20年～29年) | 阿多 利昭 |
| わたしの昭和(7) 敗戦前後のこと—ある少女の話 | 所崎 平 |
| わたしの昭和(8) 青葉の笛 | 所崎 平 |
| わたしの昭和(9) 中国青島市での戦争のにおい | 所崎 平 |
| わたしの昭和(10) 昭和20年代の子供の遊び | 橋口 満 |
| オーストロネシア文化の波に揺られて—西南日本の基層文化の探究 | 下野 敏見 |
| 志布志の天智天皇伝説をよむ | 松原 武実 |
| 鹿児島城下の太鼓踊(1) 記録資料 | 松原 武実 |
| 資料 宗門改—川辺人数宗門手札改他出張 | 前床重治・編 |
| 資料 正月 六月 次渡日帳 残簡 | 前床重治・編 |
| みんぞく・かわらばん | |
| 対馬守頼時、日岡にて殉職(1) | 松原 武実 |
| 対馬守頼時、日岡にて殉職(2) | 松原 武実 |
| ムラを襲った天然痘 | 松原 武実 |

沖 縄 県

◆宮古郷土史研究会会報

〒906-0013平良市下里1223-8 下地和宏気付 TEL0980-72-9963

年3000円 1977年創刊 <https://kyodoshiken.ti-da.net>

◇242 2021.1 B5 8p

- | | | |
|-----------------------|--------------------------------|-----------|
| 1月定例会レジュメ | 平良・神山一帯の戦争遺跡 | 報告者・久貝弥嗣 |
| 2月定例会レジュメ | 狩俣集落を歩く | 久貝 春陽 |
| 11月定例会のまとめ | 忠導氏仲宗根家の清掃と周辺文化財の散策 | 久貝 弥嗣 |
| 漲水泊～平良港を歩いて | 12月定例会を終えて | 森谷 大介 |
| 文化講座 歴史資料にみる吉野海岸沖海底遺跡 | | 久貝 弥嗣 |
| 文化講座開催のお知らせ | 発掘調査報告—ティラフグ遺跡・保里遺跡 | |
| | ・西中共同製糖場跡 | 久貝 弥嗣 |
| 巡回展「手わざ一琉球王国の文化—」 | 関連イベントの紹介 | 與那覇史香 |
| 宮古島市総合博物館 | 常設展示追加資料の紹介 | ピンザアブ洞人骨レ |
| | プリカ／故梅津茂雄氏収集宮古上布／小川京子作品〈十(てん)〉 | 與那覇史香 |
| | 池間島の「すまびとう列伝」 | 仲宗根將二 |

寄贈図書紹介

◆菅江真澄研究会 創立四十周年記念誌

菅江真澄研究会編・刊（〒011-0909 秋田市寺内兎桜1-5-55 古四王神社社務所内 TEL018-845-0333）2021年1月 A4 73頁

1981年(昭和56)に故内田武志が設立した旧菅江真澄研究会を継承して、新たに発足した菅江真澄研究会の40周年記念誌。菅江真澄研究会創立四十周年を迎えて(小笹鉄文)／菅江真澄研究会創立四十周年に寄せて(新野直吉)／創立四十周年記念講演会・祝賀会の日程／記念講演 秋田県立博物館と菅江真澄研究(高橋正)／菅江真澄研究会四十年の軌跡 菅江真澄の下に学びの徒は集う(菊地利雄)、思い出の人びと(小笹鉄文)、年表 菅江真澄研究会の軌跡概要／私の好きな真澄の一枚 観音寺跡(赤川與之助)、八郎潟の蟹気楼(石田冲秋)、雪の六花(小笹鉄文)、疫病祭草人形(小野努)、伊勢詣の家(金児絃征)、久米路の橋(塩瀬忠夫)、生鼻崎からの眺望(佐藤晋一)、水尺神社(佐藤隆造)、双六の浦から見た鳥海山(清水川修)、きつねむすび(竹谷克巳)、象潟から鳥海山を望む(田口久義)、生身剝(寺澤康世)、無題(永井登志樹)、阿仁鉾山の坑口(成田裕一)、八甲田の雪形(深澤恭仁)、松岡郷(藤原宏)／菅江真澄研究会誌『菅江真澄研究』総目次

◆鈴木松雄さんの川越職人話 川越民俗資料集

榎本直樹編 川越民俗の会（榎本直樹方）2020年12月 A4 96頁

川越市宮元町に生まれ育ち、地元で大工職人として生きてきた鈴木松雄氏（昭和16年2月17日生）が語る、川越の伝説や職人の世間話など、広く歴史や民俗全般にわたる事象についての話をまとめたもの。鈴木氏は、川越の職人や歴史などに関するビデオ作品の作者としても知られている。巻頭言（井上浩）／鈴木家の人々（祖父 まじないと古い、叔母 男名前で美人、叔父 一四歳で満洲に渡る、父親 桶屋職人、祖母 狐の話）／川越と職人（職人の仕事と伝承、職人仲間、家々の評判、街と村々の間）／時の流れの中で（戦国から江戸、明治以降、第二次大戦、戦後）／宮元町と川越周辺（土地柄、地名と農事ほか、事件、周辺）／鈴木松雄さんの話（解説にかえて）／資料 川越の職人昔話し、赤間川の新旧と川越 川越南ビデオクラブ作品集

◆民俗知は可能か

赤坂憲雄著 春秋社（〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-6 TEL03-3255-9611）2020年11月 B6 381頁 2600円＋税

民俗学における先人たちの軌跡を丹念にたどり、民俗知の可能性について語る論集。民俗知を宿した言葉たち／石牟礼道子一苦海のほとりから（はじめに、詩藻と思想とが交わる場所へ、くだもののお礼は その先へ、聞き書きと私小説のあいだ、水俣から 福島への渚へ）／岡本太郎一泥にまみれた旅へ（はじめに、もうひとつの旅学 日本へ 神秘へ、太郎と旅 東北をめぐる、前衛と生活のはざまに 旅があった、婆たちの発見の書、太陽の塔一神秘と生活のあわいに）／網野前彦一無主・無縁とはなにか（はじめに、無縁という背理の時間、重戦車の孤独、無主・無縁のフォークロアは可能か、『日本論の視座』を読みなおす、網野史学 その第二楽章がはじまった、東アジア内海世界は可能か—網野善彦とブローデル『地中海』をめぐる、文字と権力と歴史と）／宮本常一—故郷と風景をめぐる（はじめに、故郷のゆくえ、生々しい肉声が聞こえてくる、『忘れられた日本人』を読みなおす、世間師という場所、耳のある情景、『山に生きる人びと』を読みなおす、風景を作る思想をもとめて、島の資源をいかに発見するか）／柳田国男—歴史と民俗のあいだ（はじめに、失われた共産制の影を探して、和解について—明治三陸大津波の伝承から、柳田国男を携えて 世界のなかへ、歴史民俗学は可能か—考古学と民俗学の将来における協同のために、民俗学と歴史学の対話のために、ミンゾク知の系譜学、昔話研究の方法をめぐる、柳田と折口—晩年の思想をめぐる）／終章 記憶という問題系／あとがき／初出一覧

◆良寛逸話いろいろ

一般財団法人良寛会編・刊（〒951-8063 新潟市中央区古町通2-538 ふるまち良寛てまり庵内 TEL025-378-2202）2020年12月 B5 29頁

全国良寛会の連携法人として平成30年に設立された良寛会が、良寛さんにまつわ

るさまざまな話をまとめる。良寛さんの逸話（カレイ、灯籠の下で読書、まりつき、野原をびよんびよん歩く、かくれんぼ、良寛さん一貫・二貫、天上大風、小川に落ちる、月見の松、タケノコ、母を想う良寛さん、犬にごはん、ドロボウに布団、風がもてくる落ち葉かな、按摩やお灸、良寛さんの托鉢に見張り、渡し舟から落とされる、打たれても怒らない、犯人に疑われる、ワラジと涙、家中が和やかになる、ほたるの良寛さん、床屋と豆腐屋、およしさんとの楽しいやりとり、貞心尼との出逢い、からすとからす、貞心尼の看病）／良寛さんの略伝

◆令和2年度企画展 葛城の大王墓と太古の祈り

香芝市教育委員会編（〒639-0243 奈良県香芝市藤山1-17-17 香芝市文化施設ふたかみ文化センター内 TEL0745-77-1700 Fax0745-77-1601）香芝みらい創造プロジェクト香芝市二上山博物館 2020年11月 A4 28頁

香芝市二上山博物館の令和2年度企画展(11月28日～12月26日)の展示解説書。香芝市を代表する狐井城山古墳と狐井稻荷古墳の2基の前方後円墳を取り上げ、それぞれから出土したとされる子持勾玉と周辺地域の関連資料を紹介する。企画展開催にあたって(松田真一)／馬見丘陵の古墳(馬見丘陵の古墳、香芝市の古墳)／狐井丘陵の古墳(狐井丘陵の文化財、狐井丘陵の古墳)／狐井丘陵周辺の大王の棺(狐井丘陵周辺の大王の棺、葛城地域の大王の棺)／子持勾玉と古墳時代の祈り(子持勾玉とは、狐井丘陵周辺の子持勾玉、土師氏の古墳築造と祭祀)／特別寄稿 武烈・顕宗天皇の虚像と実像(塚口義信)／顕宗陵・武烈陵研究の現状と課題—狐井稻荷古墳採集子持勾玉の意味するもの(塚口義信)／展示品目録

◆地方史研究の最前線 紀州・和歌山

和歌山地方史研究会編 清文堂出版（〒542-0082 大阪市中央区島之内2-8-5 TEL 06-6211-6265）2020年12月 B6 255頁 1800円+税

和歌山県の「地域文化の創造・発展に寄与することをめざす」として設立された和歌山地方史研究会の創立40周年記念出版。会員を中心とする52名の執筆者が、最新の研究成果をふんだんに盛り込みながらわかりやすく概説する、新しい価値観の下に「地方」を創造する紀州・和歌山の通史。I 古代の紀伊国は輝いていた(氷河期にやってきた旧石器人、縄文貝塚はなぜ山中にあるのか、全国有数の規模を誇る岩橋千塚古墳群、紀州の古代は記紀神話の舞台、紀伊国造は大和政権を支えた、紀伊に残る大陸系遺物、紀南の王者 熊野国造とその末裔、ユニークな律令時代の紀伊国、名勝和歌浦のはじまり、『万葉集』歌枕の世界、「粉河寺縁起絵巻」を読み解く、空海と高野山開創、蟻の熊野詣での実態、平安時代前期の土地売券を読む)／II 中世 躍動する地域勢力(熊野信仰の成立、熊野別当家と第二代熊野別当湛増、中世高野山の組織と経営、保存修理工事で判明した丹生郡比売神社本殿の塗装の変遷、根来寺遺跡の現在、湯浅党の歴史遺産、熊野水軍が築いた城館群、奉公衆湯川氏の城館、紀州の「惣国」研究の現在、紀州の荘

園絵図、荘園調査と紀州の中世村落、和歌山平野の中世文書、新発見が続々！
和歌山の中世文書)／Ⅲ 近世の紀州、泰平・多様性の時代(秀吉の紀州攻め
和歌山城、木食応其と近世高野山鎮、浅野時代 その政治と文化、紀伊徳川家の
成立、和歌山城の郭と三の丸、紀伊徳川家ゆかりの女性、東照宮と和歌祭、領内
の統治と被差別身分、徳川吉宗・中期の藩政、紀伊藩主の参勤交代、紀州の海運
と商品流通、紀州を訪れた旅人たち、宝永地震と安政地震、発掘された地震痕跡、
後期・幕末期の政治動向、紀伊藩における表千家、紀州文人画と紀州画壇、紀州
の焼き物、『紀伊国名所図会』『紀伊続風土記』の編纂、近世紀州の出版と本屋、
紀の川河口新田の開発、駿河屋)／Ⅳ 近現代和歌山の諸相(幕末の紀伊藩、和
歌山城下沿岸の幕末台場、和歌山城の近代、地籍図にみる明治初期の和歌山城三
の丸区域、和歌山の土族たちと徳義社、陸奥宗光と和歌山、南方熊楠、エルトゥ
ール号事件に見る日本とイスラーム世界交渉史、和歌山県における明治期の小
学校教育、歩兵第六一連隊と地域社会、和歌山における「大正デモクラシー」、
新和歌浦に遺る煉瓦造トンネルの正体、移民として 画家として 石垣栄太郎、
和歌山県忠霊塔の建設、和歌山県の近代建築、和歌山の公害と住民運動、「和歌
の浦」の景観保全、版画家 清水武次郎、災害から歴史資料を守る)／あとがき

◆吉野朝晩年の宗良親王

南朝史料調査会 幽風舎編・刊(〒252-0312 相模原市南区相南1-2-9 山地悠一
郎方) 2020年11月 A5 67頁 非売品

吉野朝に関する研究成果をまとめた『南朝史料研究紀要』を発行する南朝史料調
査会会員を中心として地方の南朝史に関する論考を収録する。南北朝宮廷歌界の
経過(山地悠一郎)／観心寺の南朝陵墓上申運動概要(和田直大)／吉野朝晩年の歴
史(笠原喜一郎)／特別コラム 「老いゆくは」(佐野道子)／宗良親王に扈從せる
新田義貞の末裔(山地悠一郎)

◆講座・古代王権の興亡 第7回 日本の神話について(その4)

スサノヲの正体について 妙見山麓遺跡調査会紀要35

神崎勝著 NPOみょうけん(〒679-1214 兵庫県多可郡多可町加美区的場294
TEL0795-35-0555) 2020年12月 A4 24頁

NPOみょうけん(妙見山麓遺跡調査会)主催の新講座「古代王権の興亡」第7回
(2020年11月21日)の記録。スサノヲに関する神話(スサノヲの誕生を説く神話
(第五段)、ウケヒの神話(第六段)、天石窟伝承(第七段)、八岐大蛇伝承、大国主
神の国作り、出雲と備後のスサノヲ)／スサノヲの神性についての議論(神代史
のために作られた架空の神とする説(津田左右吉)、スサを地名とみて スサ地方
の男神とする説、スサノヲを「荒ぶ男神」「進む男神」とする説、スサバ説以外
の説)／スサノヲの本源地―根ノ国／補考／参考文献／談話の記録

◆穢狛系集団と高句麗の興亡(ノート) 妙見山麓遺跡調査会紀要36

神崎勝著 NPOみょうけん(同上)2020年12月 A4 28頁

はじめに／春秋戦国時代／明刀銭とその分布／秦漢時代と蒼海郡の設置／蒼海郡の位置／朝鮮四郡の設置／四郡の統廃合／玄菟郡と高句麗／創置時代の朝鮮四郡の疆域／高句麗の興起／公孫氏の時代／慕容氏の時代／南北朝時代／隋・唐の時代／主な参考文献

◆後記

長野県飯田市の柳田國男記念伊那民俗学研究所刊行の高橋寛治『内発的な「まちづくり」—柳田学と後藤学に学んで—』(2019「伊那民俗研究叢書4」)を読み、感動した。タイトルは、1991年に聴いた民俗学者鶴見和子の講演「柳田國男の普遍性—内発的發展の拠り所としての柳田学—」に由来する。1700年代後半から欧米で民主主義や産業革命による近代化が始まった。これに追いつこうとする開発途上国は、欧米の仕組みを持ち込み、真似する「外発型發展」に賭けてきた。日本はその優等生であったが、1960年代にその思想とは一線を画し、自らの風土や文化を練り合わせた「内発的發展」の主張と展開が生まれた。鶴見はこの思想の原型を、柳田学の学問の中に見出し、「内発的發展論」と名付けたという。飯田市職員であった高橋氏は、日本古来の共同体や合意形成の中にある「関係性」に着目し、「人」「地域」「物」などの関係を重視することで、グローバル思想では解決できない、「小さな自治」の重要性に行きつく。そうして、農業を始めて7年目の女性の話を書くなどして進めた、道路や建物のような社会基盤の整備に頼らない豊かな「むらづくり」や、飯田方式と名付けた市民による街の再生など、常に「住民自治にかなうか」と自問しながら、皆で考え、取り組んで実現させてきた。その実践のエッセンスが凝縮されている。後藤学とは、1970年代に自身の郷里である南信濃村(現飯田市)に、生活者の日常の学びの場として遠山常民大学を開講し、柳田学の「思想の移転者」となった故後藤総一郎明治大学教授の学問態度である。素晴らしい出会いがあり、学びがあつての実践であつた。叢書はほかに、1 福田アジオ『民俗学入門』(2016)、2 同『柳田国男入門』(2017)、3 野本寛一『民俗のこぼで探る遠山谷の環境と暮らし』、5 櫻井弘人『民俗芸能の宝庫—南信州』(2020)が刊行されている。いずれも読みごたえがあり、しかも、ブックレット形式で読み易く、900円という安価である。多くの人に手に取ってほしいと思う。(詳細は研究所HP <http://inaminkenhome.blogspot.jp/>) (飯澤)

地方史情報 148 2021年(令和3年)3月1日 発行

編集・制作 : 白鳥舎 hakucho@eris.ais.ne.jp

ウェブサイト公開 : 岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103 TEL03-3326-3757

*本誌は、140号より、PDF版のみの発行です。